

非賣品

外國地理講義

萬國地理講義

濱田俊三郎 講述



歴史は往時の地理なり、地理は現在の歴史なり、歴史は社會の變遷を記し、地理は現在の情態を  
 一邦の興亡は固より之を組織する人種に關係を有すと雖も、抑亦國土を組  
 成する地質の構造、土地の肥瘠、地貌の形状、氣候の順否、如何に關係すること極めて大なり、否  
 人種以外の情況は、實に人種の性質を變化する主動者なり、見よ寒帯地方に住居する人民は、  
 空氣寒冷にして、森林繁殖せざるを以て、之に生活する羊鹿なく、又魚鱗なし是に於  
 て、終身役々として奔走し、労働すと雖も、食の以て飽を得るなく衣の以て暖を取るか汲々乎  
 として一生を送るを過ぎず何を以てこの學を修め、文を學ぶの暇あらむや。之に反して熱帯地方と  
 其氣候動植物の生活に適す、沃土に生活するものと飽食逸居するを常とす、之を以て學を修め  
 文を學ぶを要せざるあり、温帯地方の人民と天然の餘惠を享くる事熱帯地方の人民の如く甚し  
 からずと雖も、寒帯地方の人民の如く、憫むべきの境遇にあらず、勞力と報酬と相俟つを以て人

類社會に生存競争を生せしめ、勝者、永存、劣者絶滅の一大法則を生せしむ、是に於て人類をして出來得るだけ安全に生活せしめ得るの方法を研究せしめ、始めて社會の進歩とあり駿々乎として遂に今日の文明を見るに至れり故に季候と實に文明の一大要素たり

氣候は實に文明の主要素たると、實に疑ふ可らずと雖も、地貌亦た文明の一要素にして、其價值決して氣候に劣らざるなり、彼の希臘の如き、羅馬の如き、夙に文明の域に達したるものは、其地貌の然らしむる所たらざる可ならず、彼の國は四周大陸を以て圍繞せらる、地中海も突出する半島に非らずや、諸外國に遊歴して、新智識を得らるべき最良好の地位に位するも非らずや、北米の如き、南米の如き、濠洲の如き等しく温帯にありて其氣候希臘以太利と殆んど同一ある處少ならずと雖も其開明に赴くの度之れに遅る、ものは彼れ是と其地貌を異にする事の甚しきに因らずんばならず、其他英國工業の盛大なる、大に地質に關係するを見る、彼の國は無盡藏の炭田と、良質の鐵礦とを有するに非らずや、彼の國の如き好材を有するを以て其工業を盛大ならざらしめんと欲するも能はざるなり、彼の工業の進歩を障害せしめんと欲するも、徒勞のみ、米國

の農業は米國の天然なり、我邦の林業は我邦の天然なり、焉ぞ事業の振否學術の盛衰を以て人爲なりと云はんや、又た人種の特牲なりと云はんや。

茲を以て現今世界の趨勢を知らんと欲するものは須らく先づ地理を研究せよと云はざる可らざるなり。

凡そ政治の事たり軍事の業たる其歸する所は利益なり換言すれば必ずや財政と密接の關係を有す、財政の根本は全く商工業の盛衰、農業の發達如何も關係す、商工業及農業の振否は、地質の構造氣候の良否に關係す、英國は海軍の盛大を誇る國なり、征清以來彼の國は東洋艦隊の勢力を増大ならしめ數々我が艦隊の運動に障害を加へしと聞く何んぞ其舉動の傲慢なる、然れ共其此に致さしむるものは、實に彼が海軍力あるを以てあり、嗚呼實に彼は海國の王たるに背かざるなり而して其財源を尋ねれば問はずして彼が廣大無邊の炭田と、鐵床にあらずして何ぞや、印度の肥野も生ずる木綿と、粟粟とにあらずして何ぞや、濠洲と、北米も産する金銀鐵の材源あるに非らずして何ぞや、されば地理と云ふと雖も、豈啻だに政治上の組織、軍艦の數、及陸軍の編成、軍人

の多少を列記して可ならむや、財政、商業、及交通の事は勿論、此等に関係を有する所の諸件は、逐一之れが記載をあたざる可からず、従て記載の順序の如き、普通の地理書と、敢て徑庭あるものにあらず、され共記載の方法は結果のみを記述するにあらずして其原因を尋ねるに努む讀者之れを諒察せよ。

總論

一、地球星學

二、地文地理

三、人文地理

各論

一、亞細亞洲誌

二、歐羅巴洲誌

三、阿弗利加洲誌

五、北亞米利加洲誌

六、南亞米利加洲誌

七、大洋洲誌

一、地球星學

地球を一つの星と見做して、之を研究する學問を地球星學と云ふ。

星にと種々ありて、交互の位置を變せざるものあり、或と然らずして變するものあり、前者を稱して恒星と云ひ、後者を稱して遊星或と惑星と云ふ。

太陽と一つの恒星にして、地球之是に附屬する所の一つの遊星なり、而して月は地球に屬する小星にして、恰も地球の太陽に隸屬するが如し、之を名けて衛星と云ふ、故に地球と太陽の子よして、月と孫に相當すと云ふとを得。

太陽と八つの大遊星及び二百五十餘の小遊星並びに數多の衛星を従ふ。此一家屬を稱して太陽系と云ふ。

### 地球の形狀 地球は平盤狀の者にあらずして球狀なり

- 一、港を辭して漸く海口に出づる船舶を見るに、港より遠ざかるに従ひ次第に船體の水中に没するを見る、又港に入る船と先づ船柱の水平線上に顯はる如き現象到る所に在り。
- 二、光線は同時に地球の表面を照らすして、東方より次第に西方に及ぼす。
- 三、望觀人の位置の高低に從つて双眸に入る所の地平面に廣狹あり、是れ地球の平面に非らざるの一證なり。

四、東或は西に向ふて進行する者ハ、同一の方向に進みて前所に歸ることを得、之を實行したる人は今を去ること三百七十余年葡萄牙の人マゼラン氏を以て始めとす。

五、太陽、地球、月の三者、一直線となりたる時、地球の影月面に映す其形圓し。

右の理由によりて、地球は球體なり、然れども地球を正しき球體にあらずして、稍隋圓體あり、乃ち其最も短き軸と三千三百三十七里餘にして、其最も長き軸は三千三百四拾八里餘なり、故に其の長短の差は十一里餘に過ぎず、而して其最も短き直徑は地球の回轉軸にして是れを地軸と稱す、地軸の兩端は乃ち兩極にして、正しく南北の方位にあり、又兩極より同じ距離の處を連接したる周圍の一線を赤道と云ふ、赤道は地球上最大の環線なり。

### 方位

今一ツの竿を地上に直立せしめ、日出及び日没の時に竿影を地上に描き置き此の二ツの影よりなる角度を二等分して、地上に一ツの線を畫くべし、此の線は正しく南北を指す所の線にして、此の線に直角の一線を畫けば、此線は正しく東西を指す線なり。

### 經線緯線

地球上に想像の縱橫線を引き以て地球上の位置を精密にす、此縱線即南北線を子午線又は經度線と云ふ、即ち南極より北極に至る線なり、此縱線と直角に交はる線即赤道に平行する線を緯度線又と平行線と云ふ、經度線は赤道を三百六十に等分し、各分度より兩極に向ふて引き此經度線の間を一度とし、一度を六十に等分し其一を一分と稱し、一分を更に六十に等分し其一を一秒と云ふ、一秒より更に細分して子午線を引く事と至て稀ありとす、何となれば赤道に於ける一秒の

長さ幾九十九尺なればなり。

想像の縦線即ち午線は地球上何れの處に引くも不可なく、又何れの地を通過する子午線を以て基線となすも不可なしと雖も、現今と英國龍動府の近傍あるグリニツチの天文臺を通過する子午線を基線と定め之れを零度となす、其より東を東經何度何十分西を西經何度何十分と云ふ。我國は東經百三十五度の子午線を以て基線と定め、太陽其子午線を通過する瞬時を我國一般の正午となす之れを標準時と云ふ

附言 瀛車の時間は標準時なり、若し地方時を用ゆれば東西によりて大に時間に差異を生じ、瀛車の發着時間に大に困難を來すを免れず之れ標準時の必要起る所以なり。

### 進 退

進退とて簡單の事實の如し、然れ共詳細に事實を考ふるときは甚だ困難なる問題なり、假令は爰に甲乙の二物ありて兩者の距離相接近するを見る、此場合に於て甲の乙に向ふて進行するものなりや、乙の甲に向ふて接近せんと欲するものなりや、或は甲去り乙之を追ふものなりや或は乙

退き甲之に及ばんとするものなりや、乃至は甲乙共に相近かんとするものありやは、直に之れを判定すること能はず、是れ甲或はこの他のものに對する位置は、以前の位置より變化する事なきや否やを確めざる可からざるを以てなり、地球上に於ける物體は運動するに當て直に其四周にある處の物體と比較し得るを以て、其運動の眞否如何を決定すること難からじ、吾人今一列車に乘じて進行し或る停車場に到着したる時、恰も反對の方向より一列車疾走來りて隣軌に停車したる後、問もなく己が乗る處の列車進行を始めたりとせよ、此場合に於て吾人ハ瀛車の影響の響く方向及時間等により、己が乗る列車の進行とは知りながら、猶ほ反對列車の進行と認めて、己が列車の進行を覺えざらん、然れ共双時を轉じて他の物體假令は田圃家屋及電柱の如き動くことなき、物體を觀るときは則ち反對列車の進行にあらざして、己が乗る處の列車の進行を認めん、如斯場合よ於ては直ちに不動の物體のあるありて、己が運動か乃至他の列車の運動なるかを決定する事困難ならず、然れ共地球と天體の運動の如き比較すべきもの、僅少にして、而も吾人の了解に困難を感ずる場合よ於ては、日月星辰の運動乃至は地球運動の性質は、遽かに之れを決定

し得可からざるものなり、注意戒心せよ吾人の五官と時に吾人を誤るものなり。

### 地球の運動

地球は車輪の運轉するが如く自軸によりて回轉す是れ其一なり

吾人が日常經驗する處よれば、太陽は東より出て、西に没するを見る、然れ共太陽果して地球の周圍を運行するものなりや、但まは地球の回轉に基源するものありやは未だ明なる能はず、何んぞかれは進退の事たる前に述べたるが如く、彼是の關係を明にせざる可からざるを以てなり、吾人は運動を知覺すること能とざる地球上に生活して、天軀を觀測するが故に地球の運動を自覺する事能はず、從て太陽太陰其他衆星盡く地球を中心として運行するが如し、然れ共詳細に天軀の運動に注意するに、諸天軀の地球を中心として運動する形蹟無之して、反て地球の其軸によりて廻轉するを見る、曆の計算法の如き、其他天軀の觀測の如き皆な太陽靜止すと雖も地球は常に廻轉するものとして計算す、而して其計算法にして誤りし事なし、之に反して地球は靜止し太陽太陰其周圍を運行すとせば、種々の現象よ於て誤を生ず、故に地球は其軸の周圍を廻轉す其時

間を一日とす、仍て此の如き運動を廻轉運動又は日動と云ふ、一日は之れを二十四に等分し其一分を時と云ひ、一時間を六十分し其一分を分と云ひ、一分を更に六十に分ち其一分を秒と云ふ。

地球は車輪の如く運行す是れ其二なり

太陽は時に或は正東より出て正西に没するとあり、三月二十一日の如き九月二十三日の如き之れあり、或は正東より南二十三度半の處より出て正西より南二十三半の處に没す、十二月二十一日の如き之れなり、或は正東より北二十三度半の處より出て正西より北二十三度半の處に没するとあり、六月二十一日の如き是れなり、此く或は正東より或は又東南若しくは東北より出て正西若しくは正南乃至と西北に入るものは抑何故ぞ、太陽固有の運動なりや、天文學者の觀測によれば太陽の位置は、他の位置を變せざる星即ち恒星に對して位置を變せざる所の星なり、即ち太陽も亦一箇の恒星にして絶て位置を變ずる事なしと、然るも吾人は常に太陽の或は東南より出て或は東北若しくは正東より出づるを見る、之れ完く天軀中にて之比較する事困難なるより此の如き現象を呈するのみ、決して太陽の運行するには非らざるなり。

蓋地球は恰も車輪の廻轉しつゝ、一定の道を行するもの、如く、太陽を中心として一定の道を行す、之れを稱して年動と云ひ此道を名けて軌道と云ふ、軌道は其形正圓にあらざして楕圓圖をなす、此楕圓圖により一つの面を假定し、此面を軌道面と云ふ、地球の延廻軸即ち地軸は軌道面に六十六度半の傾角をなす、故に一回は北半球太陽に面すること多く、又一回は南半球に面すると多し、北半球に面するときは北半球の夏にして南半球の冬なり、之に反して太陽南半球に面するときは同半球の夏にして北半球の冬なり、詳言すれば六月二十一日は太陽の最も北新(地球より觀察するとき)する時にして、赤道の北二十三度半の直上を通過する日あり、十二月二十一日と太陽最も南進する日にして此日太陽南緯二十三度半の直上を通過す、一月二十一日と九月二十三日は太陽赤道の直上を通過する日にして、之れを春の彼岸の中日(春季皇靈祭及秋季皇靈祭)即ち秋の彼岸の中日と爲す。

### 五帶の區別

太陽の地球に對する位置は常に變動するものにして、或は南に偏し、或は北に移ることあるは前條に於て既に陳述せし所あり、而して六月廿一日は太陽の最も北進する時にして、赤道の北二十三度半の所にあり、此時太陽の通過する道を地球の上に書き此線を夏至線といふ、此日より太陽赤道に向ふて復歸し、九月二十三日に至れば赤道の直上に至る、其より次第に南進して十二月二十一日に至れば其極點に達す、此日太陽の通過する道を地球上に書き此線を冬至線と云ふ、夏至線冬至線は各々之を回歸線といふ、是れ太陽此兩線を限界とし赤道に向ふて復歸すればなり、冬至線と夏至線との間は太陽少くとも一度は、頭上に來たる地方にして氣候炎熱あるを以て熱帶と云ふ。

太陽北回歸線の上にある時は、北極圏内二十三度半の地面と太陽地平線下よ没することなし、此日太陽の没せざる限界の所に一線を書き之れを北極圏といふ、又太陽南回歸線の上にある時は南極圏内二十三度半の所と日の没することなし、依て南極より二十三度半の所に一線を書き之を南極圏といふ、南極圏内及び北極圏内に於て太陽を見ると其高さ低し、故に氣候至て寒冷なり、仍て此地方南北寒帯と云ふ。



南北寒帯と熱帯との間は氣候暖温中和を得るの地にして之を南北温帯といふ。

### 晝夜の區別

晝夜の長夜も亦地軸の傾斜と地球の運行に依りて支配せらるゝものなり、北半球太陽に面する時即ち北半球の夏は、晝長くして夜短し、之に反して南半球太陽に面する時は全半球の夏にして、北半球の冬あり、晝夜長短の差と南北極地方に至るに従て愈々増し、赤道地方に赴くに從て其差愈々少なり、而して南北極等しく太陽に面するときは、南北兩半球共に晝夜半分なり。

### 月

地球に附屬する一つの星あり、是を大陰又は月と云ふ、大陰は地球を中心として運行すること恰も地球太陽の周圍を廻り行くが如し、其道を白道と云ふ月は白道を回るに二十七日餘を要す、其間に地球と幾分か進行するを以て、太陽地球及び月の一直線となるには尙ほ二日餘を要す、而して白道と軌道とは一つの平面をわらずして、互に交るが故に眞の一直線になるとは稀なり、然れども眞の一直線にありたるときは地球の影月の上に映するが故に月蝕なる、又太陽月及地球の

一直線となりたるるときは月太陽より來る光線を遮るを以て日蝕となる。

### 地文地理總論

#### 陸

陸は地殼の水面上に表出せる部分にして其大さ地球表面の全面積の二割六分に相當す、詳言すれば地球の全面積は三千四百三十八万方里にして陸地の面積は凡そ九百万方里なり。即ち陸地と其大小よりて名稱を異にす、其大あるものを大陸と云ひ、小なるものを島と云ふ、大陸及島の區別は便宜上命名したるものにして、一定の標準を有するものにわらず、茲を以て我日本の遙か南方に位する濠洲は或は之を大陸と云ひ、或は之を島と云ふ、又北亞米利加の北方に在るグリーンランドの如きものと、大陸に屬すべきものなりや、或は嶋に屬すべきものなりや未だ明かならず。

陸地の形狀 陸地は其大さに種々有るが如く形狀も亦種々あり、水深く陸地に侵入する所あり、或は陸地の長く海中に突出したるものあり、前者を灣又入江と云ひ、後者を半嶋と云ふ。

## 島 嶼

嶋と云ひ嶼と云ふは共に海水に圍繞せらる、陸塊あり、然れ共其面積の大小によりて名を異にす、嶋嶼は其排置の状態により、群嶋列嶋及孤嶋となす、群嶋とは基布散在する者にして、地中海の東にある群嶋及東印度の諸嶋の如きものを云ふ、列嶋とは其排置一條或は數條相連なるものにして、我千嶋及琉球列嶋の如き其好例なり、孤嶋とは大洋中に孤立するものにして、大西洋のセントヘレナ、アツセンションの如きは其例なり。

又嶋を其成因よ就て分類すれば、通常、陸嶋及洋嶋の二種とす、陸嶋とは陸に近く元と大陸と連續したるならんと思考せらる、嶋にして、其面積一般に大なるものなり、吾大日本帝國及英吉利の諸嶋の如き其例なり。

洋嶋とは大洋中にゐる島よして大陸と縁故少きものなり、多くは火山の力に藉り或は珊瑚の如き下等動物の屍殻よりなるものなり、例へば布哇其他南洋中星列する許多の火山島の如き、或は濠洲の近傍にある珊瑚島の如きは其例なり。

## 地 貌

地貌とは陸地の表面の状態を言ひ表はす言語なり、換言すれば土地の高低、山嶽の形状、河谿等の有様を云ふ、土地は海面上よりの高さに依りて高地低地となす。

山岳及谿谷 地表上急に波瀾を生じ高く突出して山岳とあり、或は深く没して谿谷となる、山岳は之れを別て二つとなす、第一火の作用によりて成りたるもの、第二水の作用によりて生じたるもの之れあり、火の作用によりて成りたるものは之れを火成岩といふ、富士山、磐梯山等を構成する火山岩及花崗石等の如きものは是れなり、火成岩と連綿たる脈をなすこと至て少し、従て分水背をなすもの極て稀なり、我國にては山陰、山陽の地方及舊奥羽の地方に多しとす。

水成岩よりなるもの多くと、連綿たる山をなすものよして、分水背をなすと多し、我國にては阿武隈山系(阿武隈川の東にあり)武藏の北にある秩父小佛の關東山系其他四國の中央を走る四國山系等其著しきものなり。

高臺 高臺とて山脈の間にある高地或は四方に向て急斜する地にして、通常海面上六百尺以上

にゐる平地を云ふ、亞細亞西縁の高臺、北亞米利加西部の高臺の如きは山脈の間にあるものなり、又阿弗利加の南部の如きは四方海岸に向て急斜する高臺にして卓面臺と稱すべきものなり。低地とは通常六百尺以下の地を云ふ、其大なる者は西比利亞の低地、魯西亞の低地、並に北米ミシシッピの低地の如き者に於て、恐らく海底の隆起せし者あらん、其外大河の河口土砂堆積して低地をなしたるものあり、亞非利加のナイル印度のガンヂス河口の如き其大なるものなり。

### 海 洋

海洋は其面積の大小によりて其名を異にするものなり、洋と海の大あるものにして五つあり、大平洋、大西洋、印度洋、及南北氷洋是れあり、此の五大洋の區劃は判然せずと雖も、印度洋は亞非利加と濠洲との間を云ひ、太平洋と濠洲と亞米利加の間を云ひ、大西洋は東大陸、西大陸の間を云ふ、北氷洋は北亞米利加と亞細亞の間を包まる、海をいふ、南氷洋は南極の近傍にして、又太平洋、大西及印度洋と相通じて境無し、海と呼ばれる、ものは日本海、チコツク海、バルチック海、

地中海、カリビヤ海等其著名なるものなり。

海洋の平均の深さは凡そ二千五百尋なり、又其底之傾斜の度至て緩漫にして凸凹少し、然れども山脈なきにわらず、又深海底の温度は大抵一樣にして、氷點内外なり、海水の含有物は食鹽、石膏、石灰等其他極めて微少の臭素、沃素等を含む、此等は流水の爲めに陸上より運搬せるものならん。

### 洋 流

洋流とは大洋中を流る、一種の河の如きものにして、其方向及速力は常に一定して變せざるものあり、或は然らずして時に隨て變するものあり、前者を定流と云ひ、後者を隨時洋流又は皮流といふ、今洋流の主なるもの擧ぐれば左の如し。

第一黒潮洋流 黒潮はフィリッピン群島の近傍より起り、東北に流れ、臺灣島の東を通し、琉球列島の間を通過す、四國及び紀伊の半島前端を掠めて、伊豆七嶋の間を流れ、下總犬吠崎の沖に至りて方向を東北に變じ、陸前の東方に至る、夫より方向更に東を轉じ、北亞米利加の海岸に衝突して南に轉り、北緯二十度に平行して西に歸り、再びフィリッピン群島の近傍に至り遂に黒潮

となる。

第二太平洋にありて恰も黒潮の如き流ありて灣流と稱す、灣流はメキシコ灣より發して東北より流れ、歐羅巴の南方に至りて數派に分れ、其多くは北方に進むと雖も其中の一つは南に繞り、亞弗利加の海岸に沿ふて更らに轉じ、北緯二十度より並行してカリビヤ海に入る。

第三 亞弗利加のギニヤ灣より發して西に向ふ流れにして、是をギニヤ流と云ふ、ギニヤ流は南亞米利加のローック岬に衝突して二つに分れ其一を北に轉り灣流の源をなすものなり、他の一つは南轉しブラジルの海岸に沿ふて南進するものにして是をブラジル流と云ふ。

右の外太平洋及印度洋の赤道以南にも、恰も大西洋の赤道以南にある、ギニヤ流の如きものあり、是を南赤道流と云ふ、其の外小流あれども之を略す、是を要するに洋流の全躰は赤道の南北二十度以内の所より、東より西に向ふて流る、赤道流と大陸の東海岸に衝突して二つに分る、其赤道に向ふものは共に合して、赤道の近傍を西より東に流る、是れを赤道逆流といふ、他の一と各兩極地方に向ひ東に流れ、大陸に衝突して再び赤道地方に向ふて流る、乃ち北半球黒潮洋

流の如き其例なり、南半球にゐるものはブラジル流の如き其例なり、其他兩極地方より赤道地方に向ふて流る、寒流あり、北半球よては大陸の東岸に沿ひ、南半球よては西岸に沿ふ親潮の如きは其例あり。

### 潮 汐

海水は一日に二回の干満をなす、之れを稱して潮汐と云ふ、潮汐干満の差を、所に隨て一様ならず、世界中最も甚き所は、北亞米利加東海岸のファンデー灣及英國の西海岸プリストル灣にして其潮高六十尺以上に及ぶ、我國にては瀬戸内海に於ける十二尺、筑後河口に於ける十八尺六寸等は高潮に屬し、太平洋沿岸に於ては六尺内外を通常とす、之に反して日本海と二三尺を越ゆると稀にして、佐渡の近傍は八寸内外なりと云ふ、凡そ潮汐干満の差は三角形の灣にして、其灣頭に近づくに隨て次第より其深さを減する所に於て最も大なりとす。

### 空 氣

空氣は我が地球を包む所の無色透明の瓦斯躰にして、彈力及重量を有す故に其高さによりて下

方を壓する力を異にす、海面上にては其力恰も二尺五寸の水銀其下方を壓する力に等し、今假りに空氣を盡く取り去り水銀を以て水上に盛るとすれば、其高さ二尺五寸餘にして始めて空氣の壓する力に等し、此壓力を稱して氣壓と云ふ、高山に昇るに従て氣壓を減す、是れ其上にある空氣の高さ減すればなり、故に水銀の高さを以て山の高さを測るを得べし。

空氣は又熱遇ふて膨脹するの性あるものなり、空氣膨脹したる時其重さを同容積の膨脹せざる空氣、即ち寒冷に比すれば小なり、爰に於てか膨脹したるものは上昇し、寒冷にして重きもの來て其後を填む、是れ即ち風の原因なり、赤道地方は空氣炎熱なるを以て、空氣膨脹して上昇し寒冷にして濃厚なる空氣南北温帶地方より、赤道地方に向ふて流る、又夏日に晝間低地より山頂に向ふて流る、風あるも亦此理に歸因す。

**風の名稱** 風は其強弱及性質よ就て種々の名稱あり、其流る、速力の遲速によりて種々の名稱を異にす、速力の小なる者を軟風と云ひ、大なる者を疾風又は暴風と云ふ、其速力最も疾速にして回旋運動をなすもの之を颶風といふ。

**貿易風** 赤道地方は熱を受くると甚きく空氣膨脹して上昇す、此に於て赤道の南北にある空氣來て其後を填む、地球にして若し自轉せざらんか、南半球より來る風は正しく北に向ひ、北半球より赴くものは正南に向はん、然れ共如何せん地球は西より東に自轉するを以て、南北より來る風は西に偏して、東南風及東北風とある、此風と年中常よに一定の方向に向ふて吹くが故に航海者には極めて便利なる風と謂ふべし、是れ此風を貿易風と稱する所以なり、貿易風と南北緯度凡そ三十度以内にあり。

**海陸軟風** 夏日陸は海より熱せらる、こと甚し、晝間海より陸に向て吹く風あり、之れを海軟風といふ、是れに反して夜間は土地冷却すると甚しく、海は温度陸より高さを以て、陸より海に向て吹く風あり、之を陸軟風といふ。

**半年風** 半年風と其原因恰も海陸軟風の如しと雖も、其規模甚だ大あり、即ち夏日亞細亞大陸の内部非常に熱せられ、空氣上昇すると甚し、是に於てか印度洋より亞細亞の内部に吹く西南風あり、是に反して太陽南半球にあるとき即冬日は、亞細亞大陸の内地非常に寒冷よして、氣壓増

加す、是に於て此地方より四方に向て吹く風あり、乃ち印度に於ては東北風となる、斯の如く半年毎に風の方向を變ずるを以て之れを半年風と云ふ。

### 氣候

氣候とは空氣の寒暖、風、雨量、曇、晴等、凡て天氣に關係を有する状態を總括したる名稱なり。されば氣候の變化は其軌一轍に歸すものにあらず、乃ち左に述ぶるが如し。

第一 熱帶地方の太陽常に頭上よあるを以て温度常に高し、故に氣候は赤道を距るの距離乃ち緯度の高底に關す。

第二 空氣の温度は海面上よりの高さに關す、富士山の頂上と殆ど一年間雪を頂けるを以て寒冷なると明かあり、南亞米利加アンデス山の内に國をさせるエクトワドルの首府と赤道直下にあれども、海面上殆んど八千尺の高さにあるを以て、氣候温暖なり、故に氣候は海面上の高さに關す。

第三 氣候は風の方向關係す、我日本に於ては南風暖にして北風寒し、唯温度に差異あるのみ

ならず、濕氣の多少も關係す、冬日日本海を経て來る西北風は、日本の北海岸も多量の雪を降らす、印度西南半年風は印度の氣候をして非常に濕潤ならしむ、蓋し風の方向を支配する者は山脈の方向に由る、ロッキー山と南北に連るが故に、其東にあるミスシッピーの灌域は暖風北方に向て吹き、寒風遙に南方迄吹くとあり、故に夏の間は加奈多の北方よ於て小麥を耕作することを得べしと雖も、ミスシッピー川の河口にあるニューオルレアン市に於て冬期温度は非常な寒冷なり、是れ歐亞大陸のアルプス、ヒマラヤ山脈の如く東西に連るる山脈なきを以てなり、故に山脈の方向は地方の氣候を支配するものなり。

第四 海流の方向に依りて氣候を異にす、黒潮の流る、所々暖にして、親潮の流る、所々寒冷あるが如し。

### 天産物

天産物は之を分て動植物及礦物となす、礦物の内にて吾人に最も有用なるものは、鐵及び石炭なり、鐵は現今盛に行はる、者に去て人呼んで鐵の世界と云ふ、蓋し太古は金屬器具の使用を知ら

す、専ら石を用ひしあり、此時代を石器時代と云ふ、石器時代去りて青銅及び銅器盛に行はる、に至る、是を青銅時代と云ふ人智愈進むに従ひ、鐵を用ゆるに至る、鐵は其質堅硬なるを以て、漁船、漁車其他多くの蒸氣器械鐵道武器等の製造に適し、其需用愈増加す、然れども銅は其質軟のにして、且つ鎚展し易きを以て極めて有用なるものなり、黄金、白銀の如き其質大に稱用す可しと雖も産額多のらざるを以て貨幣専ら裝飾用ゆるる、大理石、花崗石及び火山より噴出せる凝灰岩等は建築石材として有用なるものあり。

石炭は太古の植物の化石したる者にして、薪炭料として價值あるものなり、其質の最も宜きは無煙炭なり、無煙炭は燃焼するに際して煙を發するとなく、且つ火力強きを以て、戦時の軍艦等に極めて必要なるものなり。

左に重要礦物の産地を述べん。

鐵。(英、合衆、獨、佛)

石炭。(英、合衆、獨、佛、露、濠)

銀。(墨西哥、加奈太、西班牙、智利、獨逸、濠洲、日本)

銅。(亞米利加五大湖の近傍)

白銅。(ニューカレドニヤ)

石油。(北米合衆國、ベネチルバニヤ洲、露國)

寶石。(南米ブラバル、東印度諸島)

要するに重要な礦物と英國及び合衆國より出づると云ふを得べし、是れ二國の富強を致せし所以か。

### 植物及動物の分布

植物及動物は生活に或る一定の温度を要するものなり、故に熱帯地方及び寒帯地方に之、其地に特有なる動植物あり、温帯地方も其地に固有の者なり、然れ共熱帯地方は温度高く濕氣多きを以て、動物及植物の生活盛にして、大なる者多く、之に反して兩極地方は氣候寒冷なるを以て、生活の困難を感じ、長大なる者少し、植物動物の分布は各洲をずるの項に於て詳論する事なまし、

茲は總論を結ぶ。

## 各論 亞細亞洲誌

### 總論

亞細亞洲之諸大陸中最も廣大なる者にして、西、歐洲及び亞弗利加と連なり、東は北亞米利加と相距ると數哩なり、北は北氷洋より南は赤道に達し、峨々たる山嶽凜然たる谿谷其間に狹まり、蒼蒼たる平野蒼蒼たる森林其中にあり、亞細亞の海岸は其東南總て海灣に富み、商業上頗る價值ある所とす、然れども北方之海岬入江少く、良泊に乏し、海岸線の全長と五万一千哩あり三百三十七方哩に付、平均海岸線一哩とす、之を他の大陸(亞弗利加を除き)に比すれば短しとす。亞細亞の地勢は高低の差著しく、此處に世界最高の山嶽あり、彼處に世界最低の地あり、ヒマラヤ山とカラコラム山の相合する處と世界の屋根とも稱すべき、バミール高臺にして、之より山脈四方に射出し、大なる平原山脈の間に横はる。

今山脈の主要なるものと擧ぐればバミールの高臺より東南に向つてヒマラヤ山の蜿蜒たるあり、西方にはヒンヅークツシユ蜿蜒し、スライマン山之南方に馳せて、アフガニスタンと印度との境



界をなす、又カラコラム山脈はヒマラヤの北部にありて之と駢走すれども、ヒマラヤの如き大山脈にはあらず、コンロン山脈はカラコラム山脈の北方にありて東方に走る、コンロン山脈と一支脈アルナンタグ山を出す、又パミール高臺の北方より東方に脈を出すものは天山なり、其他支那帝國には揚子江の南に南嶺あり、揚子江と黄河との間に之北嶺あり、又滿洲の西北を限る大山脈は興安山脈にして、其西は則ちゴビ沙漠なり、又興安山脈は其脈を東北に引き、西比利亞東部の地に於てスタアノボイの山脈となるスタアノボイ山脈は更に一脈を西北に分つ。

其他テガンの半島には東西兩岸にゴーツ山脈あり、波斯にはエルプルの山脈東南より西北に走るあり、其他小山脈は一々枚擧に追わらず

之を要するに大陸の脊梁とも稱すべき地は、即ち露西亞と英國との争の中心點たるパミールの高臺にして之より脈を東方へ派出すると多く、西南方之に次ぐ、之を反して北方及び西北方には脈を出すと至て少し。

右と亞細亞大陸内に位置を占むる者なりと雖も、歐亞との間にも境界るなす二三脈あり、其一つ

は墨海と地中海との間にあるユーカサス地方を、西北より東南に走る山脈にして、之をユーカサス山脈と云ひ、他の一つは英國綠林の東經六十度と殆んど一致して、南北に走る所の低き山脈にしてウラル山と稱し、歐亞の境となす。

**高臺** 高臺の最も有名なる者は、彼のコンロン山脈とヒマラヤ山脈との間にある高地にして、其高さ一万八千餘呎に達し我富士の頂上より遙に高し、コンロン山脈と天山との間にある土地は即ち蒙古にして其東方はゴビ沙漠なり、其高さ平均四千呎にして、其最も低き所と雖も二千二百呎を下ることなし、其よりキンアン山脈に沿ふて、東北に進めば地勢漸次に低下す、又パミールの高より西方にありてはアフガニスタン・ベルヒスタン及波斯の高臺にして、之をイランの高臺と云ひ、其高さ三千呎を下らずと云ふ、其西方即ち裏海に接近する所は食鹽を産する曠野なり、其れより此高臺と西方に進み裏海の西海に於て、彼のクルヂスタン及バアルメリアの高臺となり、終に西方地中海に凸出せる半島高臺に接す。

**低地** い 西比利亞北部の低地

亞細亞の西北部は山脈などを以て此所に廣大無邊の低地横はる、其面積西比利亞の過半即ち亞細亞大陸の七分一を占め、三大河之を貫流す、而して此三大河の河口は、凡て卑濕の地にして沼澤の如し之をタンドラと名づく。

支那沿海の低地  
直隸灣より廣東河の近傍に至る沿海の低地は、黃河、揚子江及廣東河の灌溉する地にして、土地頗る豐饒人民極めて稠密なり。

廣東河以南沿海の低地  
即ち後印度の東南海岸は狹長の土地あれども、地味豐饒にして有名なる米の産地なり、  
ヒマラヤ南麓の地

即ちデガン半島の其脚部にして、ガンジス河アラマプートラ河及び印度河の三大河の灌漑なり。  
地中海よりヘルンヤ灣に至る低地

即ち亞刺伯半島の北部所謂シラ、アラビヤの低地は、其東方に、二又河を有し、ナグリニューフスナ  
ナス、地味豐饒なれども、其西部と亞比亞の沙漠よして、土地耕作に適せず。  
裏海の東方にある低地

アラル湖四周の低地は、其性質に於て亞刺比亞の低地に屬すべきものなり。

### 海岸及ビ港灣

我對馬より僅か十數里を隔る所は、即ち朝鮮にして、北より南に凸地すること百餘里、其先端に釜山浦あり、釜山浦より東北に向ふて進めば、西比利亞の東海南海岸にセントピートル灣あり、其内に有名なるウラジフストツク港あり。

ウラジフストツク港より黒龍江に至る海岸は、圓形にして良港に乏し、其南は即ち日本海なり、黒龍江の對岸は我舊領あるカラフトにきて、南北に横はる其間の海峡即ち樺州海峡なり、樺州海より北方はラコツク海よして、其内に二三の灣あり、其東にある大半島はカムチャツカにして其先端をラバツカ岬と云ふ、カムチャツカ半島の東はベーリング海にして、同名の海を隔て

、北米アラナカと相對す、海 の以北は即ち北氷洋を面する土地にして出入極みて少なし、獨り西北部に當り北方に凸出する岬及び西南方に彎曲するオビ灣あるのみ、而して此近傍の海岸は凡て低平にして、斷崖極めて少なし、以上は北方及び東海岸の概略なり。

朝鮮半島の西海岸は海水深く西北に侵入し黄海及び直隸灣となる、其より南は支那帝國本部の地を去て、海岸の小曲夥しく良港從て多し。其東を東海と云ひ、南は臺灣島琉球諸島に依て限らる、臺灣島より西南南島に至る間は、即ち支那の南海岸にして、其中央に有名なる香港あり、海南嶼の北部にて東京灣あり、其より西は後印度の地なり、此地の東海岸亦圓形に凸出す其先端をカボナヤ岬と云ひ、其西は海岸線深く陸地に灣入す、暹羅灣之なり、其灣頭に盤谷あり、其より南に凸出するは馬來半島にしてスマトラ島と相對す、其海 をマラッカと云ひ、英領シンガポール港其所にあり、馬來半島とデガン半島との間はベンゴアル灣に去て、其灣頭はガンジスの河口あり、又デガン半島の極南をコモロン岬と云ふ、之より海岸西北に灣入して亞刺伯海とある、亞刺伯海之二枝を有す、其一つはオーマン灣と云ひ、他の一をアデン灣と云ふ、灣の内には紅海ありて亞刺伯と亞非利加の境をなす、故に亞刺伯は其左右に波斯灣及び紅海を有し、南にアデン灣及び亞刺伯海を有する一大半島にして、海岸出入に乏し獨りアデン灣頭にあるアデン港は紅海の咽喉を扼する良泊なり。

西海岸と小亞細亞の半島にして、南は地中海西は群嶋海北はマルモラ及び黒海にして、其海岸は著名の港多し、獨り西海岸にスミルナ港ありて地中海良泊の一を爲せり。

島嶼 嶋嶼の重なるものは、大陸の東、海に沿ふて東北より斜に西南に横はる所の所謂、花彩列嶋中の大嶋にして、東洋唯一の立憲帝國として知られたる、我大日本帝國を始めとし、北海道の地方にあるカヲフト嶋、ヘーリング海の南にあるアリユシャン群嶋等と東方にある著名の嶋嶼なり、北氷洋をありてとニコルベリヤは著名ある者にして其島より多くの象牙を産す、翻て日本より西南方を見れば琉球群嶋の西には新領地臺灣嶋、其西南にて海南嶋ありて、此島支那帝國の領地なり。

印度にては南北に連なる諸嶋あり、之をアンダマン及びニコバル諸島と云ふ、前印度の東南端に

は錫蘭嶋あり、亞刺泊海の東方にてマカヂブ及びマルヂブの珊瑚嶋あり、其の他著名の嶋あり、地中海にては其東方にサイプラス島あり、土耳其も屬すと雖も其實英國の保護の下にあり。

### 河流

亞細亞大陸と其面積廣大なるを以て、河流も亦大なりとす、大河は皆中央の高臺に水源を有し、北、南、東の三方に流る、北に流る、者ニツあり、レナ、エニセイ、オビ之れなり、レナ河はヤプロノイ山脈の北陰に發源し、東北に流れニユンベリヤ嶋の近傍に注ぐ、其西にあるものはアルタイ山の東に發源し、北方に流れバイカル湖より來るアンガラ河を合せ、西北に流れ北氷洋に注ぐ、之れ即ちエニセイ河にして、其河口をエニセイ灣と云ふ、其西にある者はアルタイ山の北方より來り、エニセイ河口に接近して海に入る、即ちオビ河にして河口をオビ灣と云ふ。

東方に流る、者はエヒ沙漠の東方に發源する黒龍江にしてアプロノイ山脈の南麓に流れ、滿洲より東方に轉じ西北利亞の土地を經過し、韃靼海峽に終る、河口に接近して一都あり、ニコライスクと云ふ、支那帝國には源をロビ沙漠に發源し、東方に流れ直隸灣内に注ぐ所の黄河及び西藏の高臺の東方に發源し、同じく東に流れて東海に注ぐ所の揚子江あり、以上三大河は概ね並行す。

南流する者は後印度に於てメーユン、サルウエン及イラワツデー河ありメーユン河は其水源揚子江と略ぼ同一の所にあり、東南に流れビルマ、シヤム、カムボヂヤ及びコッチンチヤイナ等を灌漑し海に入る、其長甚だ長からざれ共、水量潤澤、亞細亞中最大の河と稱せらる。

前印度にも三大河ありて南流すると後印度に異ならず、其一つはヒマラヤ山の北陰に發源し、東に流れ其東麓を繞り西に轉じ、ヒマラヤの南麓に沿ふて南に降りベンゴール灣に注ぐ、之をブラマプートラと云ふ、蓋しブラマプートラは佛の子と云ふ意にして、其上流をサンポー(三寶)と云ふ神聖なる河と云ふ、意なり、其二ヒマラヤ山の南麓デカン半島の基脚部の水を集め東流して海に入る、其河口をブラマプートラと共ふ一つの大きな三角洲を生ず、此河をカンヂヌ河と云ひ、其河口は之れをカンヂヌ、ブラマプートラデルタと稱し、世界中最も大なる三角洲の一なり、其三ヒマラヤの北陰ブラマプートラの水源と程遠からざる所に發源し、西方に流れヒマラヤ山を横過し、スライマン山の南を過ぎ、南方亞刺泊海に注入す、之を印度河と云ひ、其全長ブラマプートラに等し、右の外南流する者と小亞細亞の東南部を灌漑する二の河あり、其東にあるをチグ

リスと云ひ西なるをユーフラテスと云ひ、共よ小亞細亞東北部の高臺に發源し、東南に流れ相合して波斯灣に注ぐ其相合する土地と有名なるメソポタミアの地にして恰も我が信濃川と犀川の合流する所に似たり即ち、我國の川中島なり、以上は亞細亞洲中の大河にして、亞細亞中央部の高臺即ち西藏及び蒙古の四周に發源し、四方に向ふて流る、而して其水源は多くは高山にして、多量の雪を有するを以て河水極めて潤澤なりと云ふ、之れに反して中央部の高臺は水少くして尾無川多し。

**湖水** 支那の西部即ち蒙古及び西藏は四方山に圍まる、高臺にして、中央窪みて稍々盆地をなす、故に盆地の水は他の地方に向て流れ出づることなく、處々に滯りて湖水をなす、即ち西藏の高臺に於て有名なる者はテングリノル及びクハノル等となす。

其他西比利亞の南部にはバイカル湖あり同湖の西にはバルクツシユありアラルの湖其西に横はる裏海は我國より遙かに大なる湖にして因て以て歐亞の境界を爲す。

**氣候** 亞細亞の地たる南と赤道より北は寒帯に入り東西の長さも亦之を稱ひて長さが故に其

中央は海の影響を受くると少なく之に加ふるに高低の差甚しく小亞細亞の死海其他アラル海近傍の如きは海面より低しと雖もヤマール及び西藏高臺の如きは一万尺以上に達し且つ高さ山脈の縦横に連亘するを以て地方に由りて種々其氣候を異にす要するに亞細亞は寒暖の差甚しく降雨も亦地方によりて著しく差異ありと云ふべし詳論すれば左の如し。

第一 前印度後印度及び支那の南部即ちヒマヤ山及び南嶺以南の地は氣候炎熱降雨潤澤殊も前後印度の西岸及びカンジヌ河口は降雨極めて多し之れ夏半年は大陸の中央部非常に熱せられ空氣上昇して稀薄となる其稀薄の所を充たさんが爲めに印度洋より東北に向つて吹き来る風あり此風は多量の濕氣を有するを以て降雨非常に夥し之に反して冬半年は太陽南にあるを以て貿易風東北より吹き續くと云ふ斯の如く半年毎に風の方向異なるを以て之を半年風と云ふ。

第二 亞刺伯の大部及びイラン高臺の地は降雨極めて少なし之れ西南より来る上流貿易風は濕氣少き亞弗利加サハラの沙漠を通過して来るが故なり。

第三 裏海及びアラル海の近傍より東方ユビ及び西藏の高臺に至る地方は大陸の中央にありて

南方又はヒマラヤ及びヒンズークーシユ等の山脈東へ横はり南方より來る濕氣を吸収するのみならず北方にも亦高山ありて北方より來る濕氣を吸収するが故に空氣極めて乾燥にして其狀恰も沙漠の如し。

第四 支那の東部より西比利亞大部の地方は降雨少くならずと雖も寒暖の差著しく氣候殆んど二季に分る又西比利亞の北部は寒冷にまて吾人の生活は適せず。

植物 植物の種類及分布と氣候と伴ふが故に其種類と極めて饒多にして形狀大小一様ならず即ち北方の低地タンポヲと稱する所に矮小なる楊柳若くは馴鹿の養料に過ぎざる苔蘚類のみを生ぜれども南方印度にてパンヤンと稱する巨大の植物あり其樹蔭にて數千人の人をして住居せしむるに足る者あり更に植物を左の數區に分つて論せん。

第一 ヒマラヤ山及び支那の南部は草木の繁殖甚だ盛よして頗る耕作に適す。

第二 亞喇伯西藏エヒ及びアラル海四邊の土地にまて降雨少く土地礫礫にして不毛の地あり。

第三 西比利亞の南方支那内部及び朝鮮等を含む地方にして森林に富み材木を産すると夥し。

第四 西比利亞北部の土地にして氣候寒冷なるが故に植物至て少なき。

動物 動物の種類極めて夥しく殊に犬科の動物多く其他角を有する動物も亦夥し又南方には美麗なる鳥類多く爬虫類は有毒のもの極めて多し

備考

第一哺乳動物は六十種に達し全世界の三分の一を占む。

第二西比利亞は善き毛皮を有する動物の棲息地たり即ち白熊、黒熊、狼、狐、黒貂、黃貂、水獺、海狸等なり。

第三中央亞細亞は固有の動物を産す蓋し家畜と其祖先此地より出てたるものからん現今産する動物は野馬、驢馬、野駱駝、野牛、羚羊等なり。

第四熱帶地方の動物は獅子、虎、ヘエナ、象、犀等多く印度には鱈魚亦多き。

第五馬來半島の近傍には鳴禽多し。

人民 亞細亞には多くの人種生活す而して人口の稠密なるは支那の東部と日本にして少なき。

は北方あり而して其多少は恰も降雨の多少と一致す斯の如く所ありて差異あれども凡そ一方  
哩は五百六十人あり。

亞細亞の重なる人種と蒙古人種高加索人種及び馬來人種なり。

蒙古人種と一名黄色人種又は金色人種と云ふ皮膚は黄色にして殆んど白色より黑色に至る顔は  
廣くして稍々扁平なり額骨秀で目は小よして目皆稍上る頭髮は剛硬にして其色黒し鬚髪多から  
ず日本人、支那人、滿州人、鞏固人、土耳其人等之に屬す高加索人種一名白人種は其皮膚は白皙に  
して淡紅色を帯ぶ額は長くて廣し頭は小くして隋圓形をなす鼻高く目皆上からず頭毛蒼色を  
帯び概して縮み鬚髪多し亞刺伯人之屬す馬來人種は一名を褐色人種と稱し外容と蒙古人種の  
如しと雖も頭蓋並に目は高加索人種の如く鬚髪多し馬來半島は此人種の住地たり。

**宗教** 亞細亞は世界の重なる宗教の誕生地なり即ち佛教、耶蘇教、回々教等皆此地より起て四  
方に蔓延す佛教は釋迦牟尼佛の教旨にして世界人口の三分の一即ち五億六千万の人民は之  
に歸依す佛教はバラモン教より分派したるものにしてバラモン教は現今印度の土人之を信仰す

耶蘇教は小亞細亞の猶太に生れたるキリストの教にして二千萬の信仰者あり回々教は亞刺伯人  
モハメントの開きし教にして九千萬の信者あり。

**職業** 北方にと魚獵に従事する者多し西比利亞及び中央亞細亞に於ては游牧を事とし水草を  
追て轉居する者多し其より南に進むに従て農事に従事する者盛なり然れども山麓又は南臺よ於  
ては牛馬羊を牧し毛皮、毛、脂肪等の類を得又南印度にては綿の製造盛なり美術及び工藝は我日  
本、支那、印度、波斯及び小亞細亞を主とす以上の諸國と綿布、絹布を産すると夥し其品位も亦高  
優なり。

米と後印度、支那、日本より多く産す我國の米は質劣なるを以て其名高し小麥、裸麥、燕麥等は亞  
刺伯の北部西比利亞の西南部並に朝鮮半島等より多く産する綿と小亞細亞及び印度等茶の栽培  
と日本、支那及び印度の北部に盛なり珈琲は亞刺伯、印度及び錫蘭嶋に多く甘蔗は印度及び支那  
東南部に多し養蠶の業は我國支那を始めとし印度、土耳其、小亞細亞等に行はれ藍は其成長炎熱  
の氣候を要するを以て印度及び支那の南部に多し

交通 交通は未だ充分に開けたるにはあらずれども我國の交通の如きは水陸共に至て便なりとす然れども大陸にありては不便なる所多し西比利亞之其地勢平坦にして河流緩漫なるが故に水運の便利あり且つ其土地を東西に通過せんと欲するは困難ならずと雖も南北に横切らんと欲せば非常に困難なり是高臺高山森林又は道路の通せざる沙漠あればあり鐵道は印度に最も多し魯西亞政府は其帝都セントペートルスボルグよりウラシヤストックに向て西比利亞を横切りて大鐵道を布設せんとするの計畫あり支那には鐵道の布設少なきも水運の便大なり我國は近來に至り鐵道の布設頗る盛なり。

電信は我國の長崎より魯領ウラシヤオストツク港を経て魯國帝都に達する線路及び長崎より上海に至り其れより印度を経て蘇士の地峽を通じ歐洲に至る線路を主なるものとす。

政跡は亞細亞洲中國を立つる者と東洋唯一の立憲政跡我日本を始めとし支那帝國朝鮮及び波斯王國並ムシヤム亞刺伯の或部分の王國等なり他之多くは屬國なり。

## 各國誌

### 朝鮮 又 高麗

朝鮮之亞細亞大陸の東部にある半島にして東は日本海南は朝鮮海峽西は黃海に臨み西北及び北方之支那及び滿州に山りて包まる緯度は我日本の本州と殆んど同緯度にあり其長さ百八十七里幅廣さ所は三十里強にして其の全面積一万四千方里實に我本州と等し。

此の國の地勢を案するに北方滿州と相接する所には長白山脈東北より西南と馳走して滿洲との境をなす又半島部の骨格をなす山脈は之を小白山と稱し半島の東部に偏在し北方より斜に東南に向ひ半島の中央部に至り高峻を極む其最高點は八千百十四尺ありと云ふ其より山脈西南と彎曲し次第に其高さを減ずれば半島の東部は土地狭くして海岸彎曲出入に乏しと雖も西海岸は土地平かにして海灣陸地に向て灣入し港灣に富む海岸線の長さ七百八里餘にして海岸線一里に付き十九方里餘の陸ある割合なり。

備考我國本州の全面積は一万四千五百七十七方里にして海岸線の全長二千四百七十五方里な



り故に海岸線一里に付き陸の面積六方里弱なり。

**河流** 圖滿江及び鴨綠江は其主なるものにして豆滿江は其源シヤンヤン山脈の南に發し東北に流れ同山脈の北陰より來る一支脈を合せ南に折れ魯西亞との界をなし日本海に入る鴨綠江は其源をシヤンヤン及び小白兩山脈に發し西南に流れ黃海に注ぐ其河口より十里の所迄は船舶を遡らすを得べしと云ふ以上二大河の外に半嶋の西部に數多の河流あれども大なる者至て少なし其中大なる者を北方より數ふれば大同江漢江錦江となす漢江は國の中央にあり小白山に發源し西北に流れ京城の南を過ぎて海に入る。

**港灣及び島嶼** 朝鮮の東岸は土地圓形にして灣入少なきを以て入江及び良港に乏し東北の海岸にある元山港は數嶋其前に横はり其背後に山を負ひ眺望頗る佳なり歐洲人は之をブロートンとなす之より海岸線東南に向ひ北緯卅五度の近邊に至り轉して西南に向ふ此所に釜山浦あり釜山浦と我對州を距る僅に十六里餘快晴の天氣よは遙に炊煙を臨み得べしと云ふ本港は四方二里餘の大灣にして大嶋を扣へ極めて船舶に便なり釜山浦より西南と海岸出入夥して且つ島嶼に

富む其中有名なる者を擧ぐれば巨濟、南海、濟州及び巨文島等とす巨文及び濟州は歐洲人が頗りに之を得んとして長く垂涎したる所あり。

濟州嶋の北方は則ち珍嶋のある所にして此邊より海岸線と北に向ふて折れ無數の小嶋海岸に碁布羅列す其より遙かに北方漢江口にある江華島に至凡そ三緯度の間は海岸屈曲多し其内にシヨール灣ありり港内に仁川港あり仁川の北方は即漢江の注ぐ所にして河口より廿里の所に此國の首府漢城あり其より北方大同江に至る迄大半嶋西方に凸出す之れを黃海道の半嶋とも稱すべきか大同江より北方鴨綠河口に至る迄海岸再び陸地に進入して入江少なからずと雖も良港に乏し之を要するに此國の東南釜山浦より漢江に至る間は海岸犬牙の錯雜する如く屈曲甚だ多く嶋嶼も亦非常に多し。

**氣候** 此國は三面海に面する半嶋なれども背後に亞細亞大陸ありて其影響を受ると少なからず殊に東方は日本海にして北方より來る寒流其海岸を洗ひ西南支那海より暖流を受くるを以て東西の海岸大に寒暖を異にす。

元山津は冬期寒冷の時と其海岸一帯氷を結び船舶の出入に便ならず然れども夏期は比較的寒  
冷ならずして東京より稍々寒しといふ。

釜山の氣候と至て温暖なれども炎暑の前後甚だ不良にして強風多く其風の方向一様ならずと雖  
も春季と東北夏候には南風多く秋冬には北風と多しとす雨は梅雨の候に多く平常は甚だ稀なり  
雪は時々降れども積ると深からずして凡そ三寸又は四寸と過ぎず而して寒暑の極度大抵我が東  
京に等し。

仁川の氣候は南海岸に位するを以て至て温暖にして釜山及び元山の如き不良の氣候にあらず之  
に由て見れば朝鮮は其氣候西南佳良にして東北に不順なりと云ふべし。

以上は地文地理の事なれば是より進んで人文地理の事を述べん。

沿革 何れの國と雖も其太古の歴史は漠として信憑すべき事實少なし朝鮮も其建國の歴史明  
からずと雖も始めに檀氏ある者國王となり千餘年間國政を取りしが支那周の前に當り箕子其  
徒數千人を率ゐて此國を來り國王となり其子孫相傳ふると四十一世九百年を経て支那戰國の時

に際し燕の人衛滿ある者兵を率ゐて此國に侵入し國王箕準を追ふ箕準其臣下と共に海に航し半  
島の南端に至り自ら立つて韓王と稱す其後朝鮮全躰は三國に別れ馬韓、辰韓、辨韓となる此に於  
て三韓の名あり其後漢の武帝兵を遣はして三韓を亡ぼし新に郡縣の制を定む然れども其政久し  
からずして亡び群雄四方を割據し天下亂れて麻の如く強は弱を亡ぼし大と小を合せ再び元の三  
國となる新羅、百濟、高句麗之れなり此時神功皇后の御親征あり先づ新羅を亡ぼし次に百濟、高  
句麗等を服す此に於て朝鮮半島は恰も我屬國となりしが久しからずして年貢を上納せざるに至  
りたり其後新羅次第に強大となり終に唐の太宗の扶助を借り百濟、高句麗を亡ぼし國內を一統  
して後世子孫に傳ふと二百五十年あり其後政治統一を缺き内亂起る當時高句麗の人王建なる者  
衆人の望により國王を廢して王位に上り國名を高麗と改めたり是れ實に今を去る九百五十餘年  
前也其後三百五十年を経て李成桂なるものあり國王を暗弱なりと稱し之れを廢して王位に上れ  
り之れ現今王朝の始めにして漢城に都せるものあり其より國の權力衰へ恰も支那の半屬國の如  
し我豐太閔の征韓せし時は僅に明の助を得て滅亡を免れたりと云爾來國力振はず支那屬國の如

くかれり近事我國の好誼により其獨立國たることを主唱し世界各國をして玉國と呼ばしむるに至りたるは世人の熟知する所あり。

八道の區劃 朝鮮全國を分ちて八道となす八道は東西二行に分る東よ三道ありて日本海に面し西に五道ありて黃海に濱す先づ東北より數ふれば咸鏡道と東より斜に西南に渡り其長さ百餘里幅四十餘里に及び大道あり其南にあるを江原道と稱し北北西より南南東に向ふ其南朝鮮の東南角となす處に慶尙道ありて東と日本海南は朝鮮海峽に面す。

西行の諸道は全羅道を始めとし忠清、京畿二道之れに次ぐ京畿道と朝鮮の中央は位置を占め朝鮮中最小の道なれども京城のある所にして最も繁盛なる地なり京畿道の北方には黃海道及び平安道あり黃海道は西方に凸出する大半島なり。

政躰及び軍備 現今の國王と李氏にして專政政治をなすと雖も其制度の如きは我國と支那とを拆衷したるが如し軍備未だ不完全なまて常備兵二千人ありて元込銃を携へ京城に於ける近衛兵及び警察隊なる者を組織せり其他從來の兵籍にある者異様なる服を裝ひ火細銃又は鎗を携

ふる者全國各地に散在せり

當朝にありては支那を君國とし即位の事あるときは常に之を支那に奏せしが近年全く廢するとさく中央政治は我國の制度に倣ふ。

宗教教育財政 朝鮮國に於て専ら行くる、宗教と佛教にして嚴重の儀式を備へて祖先を奉ず然れども其教旨を解する者少なく従つて京城内よ於ては僧侶の住居を禁ず又寺院を建つるを許さず然れども地方に於ては寺院頗る多し。

上等社會は儒教を信じ支那の書物を學ぶ物は儒者及び官員希望の目的あるものあり耶穌教を信する者凡そ一千五百人新教徒は三百人なり英語を教授する官立學校一つあり又官立の兵學校あり合衆國の士官之れを教授す。

歳入 重に穀類を以て納む故に歳の吉凶により多少の差異あり其他人參の專賣特許、鑛山特許の收入關稅其他種々不規則にして一定せざる租稅あり。

農業 全國多くは山地にして耕作せざる土地尙は多し重なる産物は米、粟、蠶豆、人參、麻等な

り石炭は國內各所に産す。

外國貿易 外國貿易をなす港仁川釜山及元山の三港に於て明治廿三年に於ける輸出額三百五十五万四千七百七十八弗にして輸入額四百七十二万七千八百三十九弗輸入品の主なものは金巾なり金巾は其價百六十四万〇百七十九弗毛織物五十五万八千八百五十九弗小間物五千二百二十九弗金屬其他雜貨等なり輸出品は蠶豆百万五百五十六弗牛皮十四万七千四百六十三弗米二百三十二万七千八百六十八弗なり其他政府は人參の專賣權を有し之れを會社に貸貸し陸路支那に輸出す又輸入國は英國五十七弗、日本國十九弗、支那十二弗、獨逸八弗、亞米利加三弗、魯西亞、佛蘭西、澳太利が各一弗の割合なり鐵及び金は國內に多しと雖も其採掘宜しきを得ず只土人農業の間に沙金を採りて輸出するのみ。

交通 内地の交通は至つて不便にして車の通ずる所少なし従つて物品の運搬は牛馬の背を借ると多し海岸の交通は専ら郵船會社の漁船に據る者多し電信は京城より西方支那の天津に達し東方の釜山より我國の長崎の通す。

朝鮮通信の方法に諸方の山に於て烽火を上げて互に安否を報ずる例あり其他郵便の如きは多くは馬背を借る者多し。

### 支那帝國

支那は亞細亞東部の大帝國にして其面積我日本の三十倍、歐の全洲に等し斯くの如く廣大の面積を占むる土地なれば其地勢従つて單簡ならず因て通常支那大部、蒙古、西藏、東方土耳其斯坦及滿洲等も區分す即ちヒマラヤ山とコンロン山との間を西藏と云ひコンロン山と天山との間を東方土耳其斯坦と云ふ天山及びアルタイ山の東キンガン山脈の西方にある山地を蒙古と云ひキンガン山脈の東方を滿洲と云ふ滿洲蒙古及び西藏によりて包まる、豐饒の土地は即ち支那本部なり。

支那本部 支那本部概して云へば山勝の地なりとす殊に西部及び南部は甚だ山多くして平坦なる地方至て少なし山脈の重なる者は南嶺及び北嶺にして北嶺と黄河の南にありて其基端遙に西方コンロン山脈及び其支脈アルタイ山脈に發すアルタイ山脈の餘脈は之を南山山脈と稱し西方

より東方に至るに従ひ其山勢次第に衰へ終に其跡を止めず黄河は實に其南方より發源す而して南山山脈とキンガン山脈との間にはアラ山及陰山の二脉ありて黄河の左岸に峙ち蒙古地方と自然の境界をなす。

翻て南山以南を見るにコンロン山脈の餘脈西より東に馳せ支那本部と西藏との界に於て南より北を走るヤンリン山脈と衝突して互に蟠結す而してコンロン山脈の餘脈は尙ほ東に向ふて支那帝國の南部を横走す南嶺之れなり又ヤンリン山脈の南方に於て一脈を東方に出す。

右に述べたるが如く支那には數多の山多くて平地少きが如しと雖も大河の灌漑及び東方の沿岸地方は甚が平坦なり。

本部の全面積は我國の面積の九倍餘を有す其海岸線は凡そ二千五十哩計りにて二百六十方哩に付き一哩の海岸線ある割合なり之れを朝鮮に比するるときは甚だ短しとす海岸線は北部より大なる灣入ありて之を直隸遼東灣と云ふ此大灣と其面積我北海道に比すべきものなり其灣の東北には盛京省の半島西南には山東省の半島ありて灣の門口を扼す灣内に天津、牛莊の港あり此灣を出

づれば即ち朝鮮半島と支那本部との間ある黄海あり黄海の西南岸に沿ふて南走すれば海岸灣曲してく字の如し北緯廿二度即我國の鹿兒嶋と殆んど同緯度に至れば一つの入江ありて陸地に灣入す之れ即ち揚子江口として河口にツンミン嶋横はる同島の對岸は有名なる上海港あり上海より海岸を傳ふて南に遡れば幾程もなく一灣陸地に進入す之をハンチョオ灣と名づく其南岸にニンポー港ありニンポー港より南香港迄は海岸線弧狀に凸凹す其間に有名なる港あり温州、厦門等之れありアモイの東方海中にある島は即ち帝國の新領地臺灣嶋あり又アモイより西方雷洲半嶋に至る間に英領香港島あり香港嶋の對岸は即ち廣東河口にして廣東港のある所なりライチウ半嶋の南よて海南(肺南)島あり其大さ臺灣嶋と相等しく地味頗る豊饒にして五穀を産すると夥し海南嶋と雷洲半嶋との西は即ち東京灣にして其灣頭に海防府あり。

河流 本部は西方に高山あるを以て河流之皆西方より東に向ふ其主あるものを擧ぐれば遼河、白河、黄河、揚子江及び西江(即ち廣東)河之れなり遼河、白河、黄河之直隸灣に注ぐものとして揚子江西江は東海及び支那海に注ぐものあり遼河とキンアン山脈に發源し東に流れ滿洲と直隸

省との界をかして南に轉じ盛京省の中央を灌漑し遼東灣に注ぐ白河は山西省より其源を發し東に流れて萬里の長城を横斷し直隸灣に注ぐ黄河は其水源遠く蒙古に發し南山とユンロン山との間にある水を集め北に流れ陰山の東を通じ南折して支那本部に入り直隸灣に注ぐ其灌漑甚だ廣大なり揚子江と東方亞細亞の最大なる河にまて其長三千五百哩あり其源は黄河と等しく西藏の高臺にありて南に下りて支那本部に入り南嶺の南を通じて東海に入る其河口より千哩の所まで舟通するを得べし其幅巾は河口より七百哩の哩所まで一哩ありと云ふ其本枝流の舟楫を通すべき全長一万二千哩ありて殆んど地球の周圍の半ばに及ぶ西江は支那の南部にある大河にして西部の山脈に發源し南嶺の南を通じ廣東に注ぐ。

**氣候** 支那の氣候は地方に由て大に差あり東方及び南方は氣候風に由て支配せられ夏日雨甚だ多し之に反して冬の日は北風凶比利亞の地方より來るを以て甚だ寒冷なり又内地の氣候は寒暑の激變甚しく氣候甚だ乾燥えて恰も沙漠の狀をなす之れを要するに支那本部の氣候は同緯度にある所の歐羅巴氣候よりも善良からず。

### 動物植物及び礦物

支那は頗る植物に富み常盤木花木の類實に多しとす又動物には虎豹の數多く人民少なき地方に徘徊す猿の類と北京の近傍に多く蛇、蜥蜴の如き爬虫類頗る多く鳥類亦多し。

支那は貴金屬、食鹽、石炭を産すると甚だ多し鐵は質善くして銅の如き世界第一とす石炭は全國至る所に産し歐洲より多きと廿倍なりとす。

**産業** 農業は支那は農産物に富むを以て之れを重要なる産業とす工業の最も盛なる者を絹布木綿及び陶器の製造なりとす。

支那の北部に於ては小麥粟及び木綿を産し南方に於ては米茶砂糖絹及び鴉片を産す養蠶は各地に盛なるを以て名あり。

**商業** 支那の貿易は世界に於て夙に開けたるものにして現今に於ても至盛なりされど外國貿易に至ては斯の如く大ならずと雖も今や進歩發達に向へり茶及び絹は輸出品にして木綿及び鴉片は重なる輸入物なり而して支那の外國貿易と云へば大抵英國及び英國の殖民地との間を行つ

支那より英國へ輸出する者の三分の二は茶とす然れども歳を経て減少の傾きあり是れ印度の諸部にて茶を産するとの増加したるに由るならん。  
 米は大なる輸入物にしてシヤム、安南、其他印度地方より來る者あり。  
 更に外國貿易の主要なる輸出入品を左に掲ぐ。

輸 入		輸 出	
木綿織物	四五、〇二〇、三〇〇兩	生糸及絹物	三〇、二五六、〇〇〇兩
鴉片	二八、九五六、〇〇〇兩	茶	二六、六六三、〇〇〇兩
金 屬	六、八七二、〇〇〇兩	砂 糖	二、六六五、〇〇〇兩
昆布及漁業	四、八七一、〇〇〇兩	麥 稈	二、〇八九、〇〇〇兩
石 油	四、〇九三、〇〇〇兩	衣 類	一、四二八、〇〇〇兩
毛織物	三、六四三、〇〇〇兩		

其他縲綿、石灰等の輸入あり。

輸出入取引の大なる國は英本國、香港及び印度を第一とし我國之に亞ぎ合衆國其次に位す而して本邦との取引は毎年増加するの傾きあり我國へ輸出する者と砂糖及び木綿を主とし我國より輸入する物は水産物、銅及び石炭とす。

通商港 支那の海岸及び大河の兩岸良港相連り貿易盛大かり我郵船の如き上海其他各港との間  
 へ毎月定期の航海をかせり。

方今外國貿易をなす者廿五港あり内十五港は本邦人の通商權を有す其内盛なる者は上海廣東の二港にして仙頭漢口天津福州廈門等は之れに次ぐるものなり今左に各港の記載を簡單に述べん  
 上海港は揚子江口に在り支那帝國第一の貿易場にして人口凡四十万あり内日本人五六百ありと云ふ商業は阿片金巾棉花人參生糸及び茶等にして市街甚だ盛なり。

廣東港或は廣州と稱之廣東河口にありて人口凡そ百六十万貿易繁盛工業盛よして支那全國中屈指の都會なり此地の物産は絹布陶器「ガラス」象牙細工其他金銀銅器等あり廣東の人民は忍耐力

に富み能く勞働すと雖も愛國心に乏し先年英佛の軍と戦ひし時其教導となり或は擔夫となり利を貪りし之れにて愛國心の乏しさを徴するに足る。

此土地は船に住居する者四万餘を下らずと云ふ其船の大なる者は二三の室を備へ花草を栽培し養豚畜羊をなし商業を營むと云ふ。

天津港と白河口を去ると六十哩北京を去る四十八哩の所にある大都會にして人口九十万氣候悪くして寒暑の差甚しく夏は百二十度に達し殆んど熱帯地方の如しと云ふ冬期は商業甚だ微々たれども夏と百貨此地に輻湊し極めて熱鬧なりと云ふ。

漢口は揚子江の中流にありて人口凡そ八十万支那西部に通ずるの要所に當り商況盛なり本邦より銅器、薄板、鐵、昆布、錫、海參等を輸入す

厦門港と臺灣島と相對し人口九万六千南洋諸嶋へ出稼する人民は多く此港よりす

交通 支那本部には道路の頗むべきもの少しと雖も水利は富み且大なる運河上海の南にある杭州より北方天津に至り揚子江及び黄河を貫ぬけり揚子江以南を江南運河と云ひ以北を江北運

河と云ふ其他揚子江の如きも河口より千哩以上の地に漁船を上下せしめ得べしと云ふ上海港には三四の大なる漁船會社ありて揚子江及び南北沿岸の貿易及び運搬の業を營めり然れども其船積噸數は之と合計するも我が郵船會社の噸數に及はずと云ふ以て支那運搬の業を推すに足る

鐵道 近年官民共に鐵道敷設の事よ心をを用ゆる者あれども未だ盛と云ふにはあらずして其成功したるは天津より開平と云ふ炭鐵に通したるのみ西曆千八百六十年頃支那皇帝は北京より漢口に通ずる大鐵道を敷設すべき詔を發したれど未だ着手の運びに至らず

郵便及電信 北京を起點として滿州地方より開港場は勿論我國朝鮮及び歐洲に通せり郵便事業は陸軍大臣の所轄に屬し車馬等を以て運搬す

區劃 支那本部は之を十八省に分つ京畿の地直隸省(燕)と云ふ其南に山東(齊)河南(豫)山西(晋)ありて山東省は海中に突出したる半島あり又其南に江蘇(吳)安徽(皖)江西(江)の諸省あり南京は江蘇省の盛都なり揚子江の南よ沿ひ以上の三省の南に福建及浙江省あり河南の西南に湖南の二省あり山西の西に陝西甘肅の二省あり陝西の南に四川あり(蜀)江西と江南の南に廣東



廣西の二省あり其西方に雲南貴州の二省あり而して十八省中面積最も廣きは四川省にして我國よりも遙かに大なり

**都會** 支那本部と人口稠密なるを以て大都會極めて多く百万以上を有する者數多あり十万以上の人口を有する者百以上に及ぶと云ふ今其主なる者を左に列記せり

一北京(人口百八十万)は支那の首府に於て一名を順天府又燕京と云ひ直隸省の中央に位し北河を去ると凡そ十二哩半運河に由りて北河と連絡す其緯度と我國陸中盛岡と相等し全都府は之を内外に區別す内部は其中央に皇居あり宮殿樓閣遊園伽藍外國公使館等の所在地にして韓滄市と通商す外部と支那帝國市と云ひ商業繁盛の地にして道路廣けれども修繕すること少なきを以て降雨の日には泥土脚を填め糞尿共に合し汚穢なると云ふ可らず地は昔遼、宗、金、言等の都せし所なり

二、(南京人口凡そ十五万)江蘇省中揚子江を遡ると凡九十哩の所にあり明朝の都せし所なるを以て北京と對して此稱あり名所古跡多く文學盛大にして毎年試験も應ずる者一万二千ありと云ふ

ふ此地と更紗製造の業甚盛なり

三、西安(人口八十万)支那西部陝西省の首府にして黄河の一支流に望み内地の一大都會にして商業頗る盛なり此地は昔帝王の都せし所にして名所甚だ多しと云ふ

四、蘇州此府は江蘇省の首府にして省の南上海の西にあり人口二十餘万豪商櫛比し絹布の製造甚だ盛なり

五、杭州は上海の南方運河の起點にして同名の灣に臨み人口凡そ百万あれども船にて住居する者甚だ多しと云ふ昔伊太利ベニスの人マルコポーロ此府に來りし時は既に甚だ盛にして當時歐洲に比なかりしと云ふ

**政體** 專政君主政體にして禮樂、國教、征討等の長たり朝廷に内閣あり其下に陸海軍、財務、儀禮、任命、辦理、軍務所、總理、各國事務、衙門又各省に總督及巡務を置き之を治めしむ文武百官の登用と古來よりの試験法も由る

**歳入** 抽租、貢米、海關稅、免許料等なり

**陸軍** 其旗色に應じて八種となす其中十萬を近衛兵となし毎年觀兵式を行ふ其他各省に縁戚兵なるものあり六十萬ありと云ふ

**海軍** 海軍は専ら西洋の式に倣ふて編成し分つて北洋艦隊、福州艦隊、上海艦隊、上海屯田營、廣東屯營の四師團となす

**言語** 支那は各地其言語を異に之北京の語、南京の語の外は各省の方言ありて南北の人相ふときは其意味に苦む獨り官語を以て最も普通の語となす官語には官吏、學者、豪商等の間に行はる、者にして北京、南京、兩語の折衷したる者なり

**宗教** 佛教、ヲマ教、儒教、道教等行はる佛教は後漢武帝の時非常に盛にしてそれより數代の間甚だ盛なりしが現今之を信する者至て少なしヲマ教は支那の西北部に専ら行はる、宗教にして佛法より分れたる者あり中に一派あり一は肉食妻帯し他を獨居す儒教は孔子の教にして中等以上の社會に行はれ極めて勢力あるものなり道教は老子の教にして無慾潔白なるを旨とす其他耶蘇教あれども餘り盛ならず

**教育** 教育は至る所學校の設ありて公私立共に人民をして學に就かしむ然れども我國に於けるが如く普通學を教ふるに非ずして漢學詩文等を教へ官吏を養成するを目的とす近年に至り北京に外國語學校を設け外國語及び化學を教授すと云ふ

### 滿州之部

滿州は支那帝國の東北部にして西比利亞と界を接す幅員ハ卅六萬四千方哩余即我本嶋の殆んど三倍なり本地ハ之れを三省に分つ其最も南ありて海中に突出したる半島は即盛京省にして嘗て我皇軍が馬蹄を以て蹂躪し我忠勇なる軍人が辛酸を嘗め幾多の人命を賭したる地にして吾人が須臾も忘る可からざる地たり全省の北方にあるハ吉林省の地にして北ハ松花江を以て黑龍省と接し東北ハ烏蘇里江によりて露領沿海州と界す黑龍江省ハ滿州最北の曠野にして黑龍江を隔て、西比利亞と界す

**地貌** 滿洲全地の山脈は興安嶺及長白山を以て主山彙となす興安嶺ハ滿洲の大山脈にして西南より東北に延び西比利亞に入る西比利亞にては之れをヤプロノイと云ひ其全長八百哩に及ぶ

然れ共其高度ハ三千尺を踰ゆる處稀ナリ

**長白山** ハ滿洲南部に蜿蜒する大山彙にして其秀高ハ一萬尺以上に達し四時雪を戴き嶮岨にして登山すると能ハざるもの多し

興安嶺と云ひ長白山と稱すと雖も固より單一の連鎖ハあらずして數多の連鎖の相集まりたるものあり即ち興安山彙に屬するものハ東西興安小興安及イルホリ諸山脈とし長白山彙に屬するものハ小白山脈及完達山脈を主なるものとす

**河流** 滿州即東三省中を流る、河ハ黑龍江の支流を以て第一とし遼河を以て第二とす黑龍江の支流ハ其數多しと雖松花江及烏蘇里江ハ其首位に居るものとす松花江ハ一名を混同江と云ハ其源を朝鮮國境なる長白山彙の中に發源し北流して吉林省の首府吉林の東を通し水勢漸く増大し流向西北に向ひ黑龍江省中興安山彙の間ハ發源して南方に流下する嫩江を合せ東ハ轉し北緯四十八度の近傍に至り黑龍江の本流に會合す是より水勢大に緩除とあり河身漸く散漫し數多の島嶼其内に基布す夫より東下すると凡そ五十里恰も我國の標準子午線に至り凱興湖より來る烏

蘇里を合せ此所に於て滿州の境を去りて魯領に入る本流ハ亞細亞洲中屈指の大河あるか故に小蒸氣船は吉林府まで遡上する事を得べしと云ふ

遼河は其源二あり共ハ直隸省に發し東に流れて萬里の長城を横過し流向東南に變え奉天府の西を通して營子口を過ぎ遼東灣に注ぐ今より百五十年頃前までは流水緩漫にして奉天府より遼北方まで支那船を通過し得たりと云ふ然る現今にてハ營子口より遡る事十海里に至れば船体の較々大なるものは通じ難しと云ふ

**湖澤** 湖の大なるものを興凱湖となす興凱ハ烏蘇里江の發源する大湖にし南北長二十里東西十五里にして卵形をなす深さハ通常十五六尺に過ぎずと雖如斯水量の少さハ際發盛なるが故なり水量ハ至て少しと雖魚族の純化に適し毎年三月湖面解水の期に至れば魚群來て湖水中ハ充滿し漁船の車輪に觸れて死するもの又跳躍して甲板上に昇するもの鮮あらず其大なるものハ鱒魚の類にして百二十貫に達すと云

**海岸** 滿州の海岸ハ即盛京省の海岸なり此の海岸ハ其省の先端に於て多少の屈折あるもの隨

而良港に乏し其内主要あるものを營子口旅順口大連灣皮子窩及大孤山港とす

營子口は遼東灣内遼河の河口に接近し牛莊城を距る十餘里許滿潮の時に支那船を通りしむべし奉天府に達するの要衝に當り人口一萬あり商賣の大なるものを油房となす豆類及麻子類より油を搾る輸出物の主要なるもの豆油豆餅獸皮人參等とし輸入物の細綫陶器砂糖洋布とす凡て内地の商業の巖冬季節に際して大地凍氷したる時を以て最頻繁とす

遼東半島の西岸を繞りて内海を出つれば黃海の瀕に有名なる旅順あり山東角の威海衛と相對して渤海灣の咽喉を扼す大連灣は其東方にある大灣にして内に小灣相連接すピクトリヤ澳と云ひデモンゲ澳と云ひ共に灣内の良泊なり此地より東に皮子窩あり大孤山ありと雖も何れも小河口なれば大船を繫碇するに便ならず唯だ大孤山港のある處は大洋河口に接近する事なれば其水利皮子窩に比すべきものにあらず

**氣候** 遼州の氣候は寒暑共に甚ましく夏季は華氏八十度乃至九十度に上り冬期は五十度乃至零下十度に下る河流は大概十一月下旬に至て結氷し三月中旬に至らざれば融解せず故に一年中冬

期最も長くして夏季之れに亞き春秋最短し穀類は二ヶ月を出てすして成熟し九月下旬に至れば全く倉庫に入る、事を得べし冬季の來るに當ては概して風雪を以て初めとし次而晴明の氣となり漸く凜烈の候となり雨水絶てなく時々降雪の霏々たるあるのみ然れ共之れが爲めは旅行に困難なるなく湖沼池澤は総而堅氷を結ぶを以て縱横に跋涉し得べく運搬の便を得る幸福なる時とす遼州東北部の氣は他の同帶の地に比して返寒の甚しきを概して森林沼澤を有し人烟稀疎開拓せざる地十分の八九有之とす是れ多少害を與ふる點とす然れ共其主要の源因は大陸氣候に職油せずばあらず

**物産** 鉄は多く遼陽州の東北凡一里なる撒馬集近傍に産出し其他海城復州岫巖の近傍より出す其質善良にして光澤あり尤製練に適す石炭の産地亦た少からずと雖未だ採掘するに至らず砂金の三ヶ處より出す其一は黒龍省の北部よりし其二は吉林省の東北三生城よりし其三は吉林省の南よりし黒龍江省の北部よりするもの其地を抽特哥と呼ぶ蓋抽特哥と稱するものは其地に住するもの、語にして金と云ふ義なり砂金を含むの量は四貫三百六十匁の沙中より七匁五厘を

得べしと云ふ之れを露領各所より淘汰する所の量に比すれば遙に多きを以て露人の國境を越て移住するもの年々其數を増すと云ふ

植物は其生殖甚だ盛にして喬木灌木共に密叢し森林翁鬱たり植物の多數は針葉樹若くは殼斗科の植物にして美麗の花を着するものと至て稀なり

稻米は支那人の食物中よ於て甚だ重要なるものなりと雖も氣候严寒の爲め成育する處は唯遼河の四近のみ之れに反して藍麥玉蜀黍烟草及阿片の産格甚だ夥し就中藍靛は其容積小にして高價なるを以て農家の尤も耕作する所とす阿片の需用は年々増加し土人禁制を犯し罌粟を培養し官吏も亦苞苴を納れて之れを默許せり

滿州は其産物を産するを以て名あり殊に吉林府の近傍にあるものは其葉巨大にして長二尺五寸幅八寸よ達し香氣馥郁たりと聞く滿州人は藥用人參殊に原野に自生するものを以て奇功あるものとして之れを採掘販賣す其産地と烏蘇里江谿及吉林省の東南部に多しとす

動物 は貂鼠を有用のものとなす貂鼠と其生活する森林によりて其着色及光澤を異にす例令

と松杉等の森林中に生活するものハ毛色最も暗黒を帯び品格亦高く白楊樹林に住むものと毛色稍鮮明にして品格亦之に次ぎ落葉松及五葉松等に産するものは毛皮鮮明ならず從而價值低とす  
風俗 滿州南部は風俗其他百般の事漢土と異なるとなしと雖も北方の人民は蒙昧よして恰も本邦北海道の土人の如く漁獵を事とし獸革魚皮を纏ふもの多く宛然太古の風を存す

宗教 宗教亦漢土と異なるなし唯た北方慈恩の民と薩滿教と稱し巫女占者等の豫言を深く信奉し病者の治療よ至るまで此教徒の言に従はざるなし

都會 盛京省の中央に位する首都盛京は清國の舊都よして人口廿五万内外二重の城廓を繞らし市街櫛比道路清潔ある燕京の比にわらず内廓は四方形にして石を以て基礎とし甃を疊して之れを造る高三丈五尺厚一丈八尺なり城内よハ天壇太廟五部等の官衙其他許多の宮殿其内に滿つ外廓亦四角にして方一里内に市人の街わり獸皮野菜烟草及雜穀を賣買す商賈ハ山東山西及廣東人とす

廳金州は金州半島の頸部に位し大連灣を經つる一里弱人口二萬百貨雜穀此地に輻湊す輸出品の

主要なるもの高粱玉蜀黍及豆油等とし輸入品の木綿砂糖及紙類とす興京の奉天府の東北三十里にあり清國創業の地にして往昔頗る繁昌ありしが現今の衰頽して人口僅に六千城の西一里に山陵あり清の太祖を葬る

其他盛京省に屬する著名の都會は海城(二万五千)鳳凰城(二万)岫巖(一万)復州(二万五千)蓋平(三万)等は何れも我が懲膺の師が汗馬の勞を取りたる所造次も頓沛も忘却す可のざる所なり

吉林府は吉林省の首都にして松花江の左岸に位し人口十萬人家稠密商賈繁なり此府は東部滿州の咽喉を始め盛京省と黑龍江省とを連絡する要地なり

寧古塔は吉林府の北方にあり前面は松花江の一支流ホルハ河に臨み巍峨たる長白山脈を枕とし所謂山河襟帶の要地なり加之堅固なる城寨を繞らし天巧人工兩つながら完備し實に北邊の要鎮たり人口二万五千なり金の始祖は此地より起る

三姓城は寧古塔の北方ホルト河と松花江と會合する所にあり農業能く發達す

墨爾江省中主要なる都會と省の南部に位する齊々波爾及び東北にある愛輝あり齊々波爾は嫩江

の瀕にあり人口五萬大小麥及高粱を産する盛なり愛輝は一に黑龍江城と稱え黑龍江の右岸に位し西南はイルポリ山彙と相對し東北は江水に臨む此地は露領と、犬牙錯雜し彼我の往來頻繁に於て事件の交渉日々増加するを以て支那政府と爰に鑑るわり文武の材幹を撰拔し此地に駐在せしめ以て邊防に充つ

### 蒙古之部

蒙古　ハ滿州の西部にある高地にして北及西ハ魯領亞細亞と境を接す二大山彙ありて其地を限る其一ハ阿爾泰山彙にして他の一ハ崑崙山彙あり崑崙山彙に屬するものハ南山(一名を連山と云ふ)阿拉山及陰山にして河爾泰山彙に屬するものハ唐努山杭愛山及薩彥山脈となす如斯高山四周にありて圍繞するが故に内地低くして恰も盆地の狀を爲す是を以て四周の水は中央に淮集して湖沼をなすと雖氣候乾燥にして水量少く多量の流水を受容すと雖共之を放流するとなし殊に東北より西南に涉りてハ乾燥の度甚しきを以て完く沙漠の狀をなす之れ即尙壁也されハ氣候の激變ハ實に著しきものにして春季晴天にハ氣温増進して華氏八十度以上昇すと雖とも太

陽漸く夕陽に傾けば寒冷忽ち襲來て寒風颯々として來り陰温器俄に下降し氷點下八度に達し落花翩翩々々天地晦明光景暗澹たり

**植物** 四周の山地にハ多小樹木の繁茂するものありと雖内地にハ唯々灌木牧草の生するのみ  
**動物** ハ其餌食とあすべし材料に乏しき故に其種類至て少しとす然れ共角を有する動物特に山羊類と其種類夥しく往々曠野中其佇立するを見る

**礦物** ハ其産出多量なるを聽かずと雖各所より出つるを以て其播布大なりと云ふ  
**職業** 人民の職業は所より多少差異ありと雖とも遊牧に従事するもの多し然れ共東南部の人民は農業を事とて一定の住所を定むるもの間々有之とす蓋人民多數のもの、財産は家畜にして其肉を喰ひ其革を着し毛を編して之れを毛氈の類となす

**風俗** 人民の風俗は一般に惰怠よして競馬談話を業とし且つ唱歌を好む砂漠中には旅客の疲勞を慰めん爲め唱歌談話を業とするものあり食物は好而羊皮焼酎を用ひ且喫茶を好む人ありて訪問すれば其朋友たると親戚たるを問はず又其初會の人物たるを問はず懇切に之れを待遇する

を常とす

**宗教** と佛教に属する喇嘛教にして人民之れを信奉す喇嘛教は之れを二つに分つ一を黄教と云ひ他を紅教と云ふ紅教は其教界近にして巫女占者に類して道埋學識に乏しきものあり之に反して黄教は其教高尚にして大乘教の如し

本地は支那政府の愛管内にありと雖其行政これす

元來此地方は制御し難き所にして古來支那王朝の窘窮する所なりしが清朝に至り漸く考慮する所あり暗々の裡に 教徒を籠絡し教徒をして人民を軟化し以て清朝に抵抗するの氣力あからしむ之れ今日に至るまで此邊事なきを得たる所以なり一得一失は數の免れざる所か露西亞は蒙古人の軟化せられたるを訝貨とし覬覦の念寸時も怠らば間隙あれば之を蠶食し卷席せんとす吾人豈對岸の火視して可ならんや

### 伊犁

**伊犁** は蒙古の西南に位し面積五十五万方里人口百萬中央には天山々々東西に馳せ地勢を南

北に分つ天山南路天山北路之れなり天山南路は之れを東方土耳其斯坦と稱し又回疆と云ひ大沙漠の如し天山北路は之れをズンカリヤ又新疆と稱し固より空漠たる平野なりと雖西方は伊犁河貫流して魯領中央亞細亞入りバルクツシユ湖に注ぐ其河谷と地味豊饒にして農作に適し人文活發ありクルシヤと稱する都會此處にあり

新疆の西部はカロコラム崑崙諸山及天山々彙の盤旋する所にして地勢高崇一万八千尺乃至二万尺に達するもの所々に參重し山頂若しくは幽谷には千古の氷雪を陰藏す谿間の氷は相集て東に流れロプノル湖に注ぐ之れをタリム河となす

タリム河之其流れ歐のタニユーブ河と拮抗し得べく我邦石狩川の四倍に相當し得可しと雖其東流するに従而水量次第に減し湖水に注ぎて遂に消失す其此に至るもの東方は瀚海の一部分にして氣候乾燥なるに歸因すされば此地方も亦天山北路と等しく西部は人民の繁殖に適しカシユガルヤルカンド及コータン等の諸都落存在すれ其東部は寂漠たる曠野なりカシユガルは人口十萬あり州の西部にありヤルガンドは其東南にあり人口十五萬何れも商業上樞區たり

伊犁の東方南山の南麓は青海地方と稱し一區をなす青海は其地方にある大鹹湖なり

## 西 藏

西藏 は伊犁の南部にある高臺の地にして南にヒマラヤ山を隔て、印度と埒し北は崑崙山脈によりて伊犁蒙古に接す其面積七十三萬八千方哩なり其平均の高度一万三千尺以上にして我富士の頂上より遙に高し歐州人呼て世界の屋根と稱す

印度河 プラマプトラの如きイラワディ、サルウエンの如きメーコン楊子江の如き諸大河の皆此處に發源せり

ヒマラヤ山の最高處は結晶岩又花崗等の岩石より成ると雖他の部分の第三紀に屬す西藏の銀銅及錫を産すると雖も之れを鑛解するの材料に乏しきを以て之れを採掘して製煉するに至らず黄金の産出之れに次ぎ食鹽硫黃礬砂及硝石等を産すると亦少からず

氣候 是れ迄述へたる諸州と等しく極めて乾燥にして獸皮の如きものの之れを空氣中に曝露するも腐敗するとなく乾固して粉末とせし得べく木材亦脆くして折れ易し土人の革衣を着する



に相磨擦するあれば電氣を放つこと屢々有之とす

**職業** 人民の牧畜を以て業とするもの甚た多し従て獸毛の産格著大なり工藝品の毛織物佛像の彫刻等に妙を得る首府ラツサハプラマプウトラの支流の瀕にあり人口五方商業盛なり僧侶の甚た多く全体の殆んど半に及ぶ

### 印度支那又は後印度

印度支那と亞細亞東南部の大なる半島にして其面積八十七万三千方哩即ち我日本の六倍にして人口凡そ三千六百万あり此半島の樞軸とも稱すべき山岳は數條ありて北より南に走る其内大なる者は西方にあり遙南に凸出して半島となる馬來半島之れなり其半島の先端は即ちロマニヤ岬にしてシソガポールは其近傍にあり其又東方より山脉ありて東海岸に平行して走しれり

**河流** は北方に發源して南に流る其主なる者四つあり其内二は馬來半島の東にありメーコン及びメナムと云ふメーコンは東部を流れて支那海に注ぐ其下流の低地はカムボデマ及び佛領交趾なりメナムは半島の中央部に發源し南下してシヤム灣に注ぎ其河口に盤谷府あり半島の西部

にある河はサルウエイン及びイラワデーにして共に西藏に發源し南に流れベンガル灣に注ぐイラワデー河口と大なる三角州をなし其東にマーマン灣を抱く以上諸大河の灌域は土地豊饒にして米の收穫多しイラワデーは砂金を出すと多きを以て大砂金江の稱あり

**海岸線** 支那海南嶋は雷州半嶋と共に東京地方と相對して其内に東京灣を抱く東京灣以南の海岸は即ち支那の海岸にして屈曲乏し其西南に即佛領交趾の地にして其尖端をカンボチヤ岬と云ふ同岬の西方に即暹羅灣なり馬來半嶋其西にありて遠く海中に突出す英領新嘉波の其尖端にあり一小嶋にして同名の港あり我東洋より西洋に至る要津なり同所を僻しまツカ海峽を通過して北進すればイラワデー河あり土砂の運搬盛にして三角州を成し其西より小灣を容るマタマンと云ふラングンハ其灣頭に接近する都會なり

**氣候動植物** 後印度ハ北熱帯に位し支那海及印度洋の間に狹まる、を以て氣候炎熱にして濕氣潤澤なり従つて健康を害すると有之とす動物ハ虎豹犀野猪猿の類多く鱒魚蛇蝎の類牧擧するに違わらず植物ハタイキ、エム竹等多く木綿煙草砂糖藍及茶等を産すると夥し

礦物 各地多しと聞け共未だ採掘せらるゝもの少なし暹羅の金、馬來諸洲の錫、並各州より産する金剛石の其名高し

行政區劃 第一佛領印度支那第二暹羅第三馬來諸島第四上下緬馬

第一佛領印度支那の後印度の東部にありて其面積の我より大なり人口凡そ千八百万あり此國の中央部の山地にして南北に平地多し其北部東京灣に面する底地の中央にフンカ河ありて東南より流る其流域の即ち東京あり南方の平地のメーコン河の流域にしてカンボチャ及び佛領交趾の二州に分つカンボチャの其北方より米、檳榔、樹煙、草蓆等を産し鹽、魚、操綿豆類及び砂糖類を輸出し、葡萄酒、茶織物を輸入す、アノンペン、メーコン河に望む都會にして人口三万あり

佛領交趾のカムボチャの南にある底地にして米を産する、夥しく之を支那に輸出す其他椰子、砂糖、煙草を産す西貢の東南岸にある港にして人口五万支那人及び歐洲人の住居するもの多し

北方の底地の東京洲の土地非常に豊饒にして農産物を産すると多く又銅、鐵、炭田あり人口稠密に

之て佛領印度支那の大半は此地に住居すソンカ河に瀕する河内府は人口十五万あり

中央部の高地は交趾支那又安南本部と稱し重なる物産の穀物及桂皮、綿花、茶、煙草等にして輸入品は米、木綿及阿片等あり皆支那及日本より輸入す順化府は首府にして東海岸に臨み人口十万あり王宮の如きは壯大にして堅固なる城廓を廻せり

以上述へたる諸洲は元來世襲の專政國なりしが十八世紀の末交趾支那の一部を佛國に與へたりしか其後佛國次第に領地を廣め西曆千八百二十三年カンボチャの保護權を得八十四年東京洲全く佛國の支配に屬し次で交趾支那又佛國の保護の下に立ちしが爾來東京交趾支那カンボチャ佛領交趾の四州を合せて佛領印度支那と稱するに至りたり

暹 羅

暹羅 は佛領印度支那の底地にしてメナム河此國を灌漑し全面積と近來に至る迄殆んど我國の二倍ありしが佛國との葛藤の爲め其四分の一を別ちて佛國に讓與したり人口甚だ少なく六百万を超ゆるとなし

氣候 此國の氣候と乾濕二期に分れ六月より十月迄は濕氣にして自餘は乾氣とす其内五月頃

は氣候尤不順よして其炎熱あるとき凡九十五度内外よして其他の月と雖八十度を下ると少なし  
降雨多きを以て河水常に多ければ土地豊饒にして米を産すると夥しく實に世界中の米産地なり  
又森林には善良の材木を産すると多し鑛物も亦多くして東方に鐵を出之中央部より石炭を採  
掘し西方には黄金を産す其他至る所鑛物多しと雖も交通不便にして採掘未だ盛ならず然れども  
紅玉黃玉碧玉等の産地の年々多額に達す

**政權** 此國の政權は國王内閣と共に執行し内閣員には陸海軍、内外務、文部、工部、大藏の諸大  
臣及警視、監獄、總監あり全國を四十州に分ち知事を置きて之を管轄す

**國防及財政** 陸軍は僅かの常備兵ありと雖も一旦事あるときは國民一般徵發に應すべき者  
とす然れども武器を帯ひたる民兵の設けなし政府は數多の大砲の外武器八万を有し陸軍の將校  
には外國人若干名あり海軍と砲艦數隻ありてメナム河口に砲臺の設けあり政府の收入と地租、  
阿片、錫、杭木税、菓樹税、賭博税、食用鳥巢税、酒税、海關税、漁業税等なり

**都會** 盤谷府はメナム河口を去る三十哩にして人口六十万其内支那人大半を占む此土地の地

勢は低くして草叢沼澤多く絶て岡を見ず王室官舎は壯麗にして市街亦清潔なりといふ

メナムとメナム河口にある小都會にして鉄道に由り磐谷と連絡す舊都ユーシアと盤谷の上方  
よりて鉄道は此地より良林に富める深林の間を通じて東府有名の米産地カラットに達する計  
畫あり電信と國內諸方に架設せらる

**教宗及教育** 此國の宗教は佛教にして近來耶穌教の教布に従事する者多からずとなさずと  
雖改宗するもの甚だ鮮少あり教育は近年に至り大に進歩して首府盤谷に官立學校三つを設け英  
語を教授す僧侶は今尙全國の教育を主れり

**風俗** 此國の人民は温和あれども遊惰に流るの僻あり男女共に幼時より檳榔樹に石炭を濕し  
たる赤色の膏を噛み其齒涅黒其唇紅なり

**貿易** 外内貿易は頗る盛にして米砂糖材木等は商品の主なるものなり其外護謨胡椒象牙牛皮  
蜂蜜等之に亞く輸入品の主要なるものハ金屬及金屬器織物球玉陶器等なり

## 馬 來 諸 州

馬來諸州とは馬來半島にある諸部落にして其勢力至て弱く眞獨立國と稱す可き者少く多くの英國保護の下にあり其中ペラツ、ジョホールは其名高し、

此半島は恰も赤道直下にあるを以て氣候極めて炎熱なり從而森林繁茂し猛獸毒蛇多し礦物の産出も亦少ならず農業の如き未だ幼稚の域にあれ共山地は珈琲及香料植物を培養し底地は稻を耕作すと云ふ

此國の人民は概ね馬來人種にして回々敵を奉ず支那人及印度人之に次ぐ

英國殖民地新嘉坡は半島の南端にある小島中に在りマラッカ海峽の咽喉を扼し東西兩洋通商の要衝に當り南北貿易の物産此所に輻湊す地勢平坦にして樹木繁茂し赤道を距る僅に一度に過ぎざれば其氣候の變化少く毎日驟雨を來し暑氣爲めに輕減し日中九十度を越ゆると少なざれば西洋人は此地の住民にして夭折するもの少きを以て小兒の樂天と云ふ

### 上 下 緬 馬

上下緬馬之暹羅の西方にありて面積其二倍に相當すれ共人口は僅に八百万に過ぎず其南方へ

カル灣に面する低地を下緬馬と云イラワデーの上流を上緬馬と云ふ土人は蒙古人種に屬し性遊惰なり此國は一大帝國なりしが今より二百年前より英人の蠶食する所となり遂に全く英人の有となる都會の主なるものはマンダレー及ラングンにして共にイラワデーに望み鐵道を以て連絡す

### 印 度 誌

印度の一にヒンドスタンと云ふヒマラヤ山の南麓洋々たるカンジス河の沃野より南の高原性の半島を抱括し土地肥沃にして五穀豐饒人家稠密炊煙盛よ起るされば其文化夙に開け文學宗教一時の隆盛の域に達し人文活潑なりしが天與餘慶の反て彼等が文明を退歩せしめ安逸に耽らざるに至り遂に今日の如く英國人の配下に呻吟するに至りたるを哀れなる

印度の全面積は百五十七万方哩にして恰も我帝國の十倍に等しく人口凡二億五千万ありて其數全歐の半以上に居る亦以て一大坤輿なり然るも其過半は英國の配下に屬し森々として勞働に従事する而已嗚呼亦多少の感慨なき能はざる也

海岸線 甚だ短くして僅々三千六百哩なり即ち四百十六方哩毎に一哩の海岸線ある割合な

り先東北より海岸線の情態を陳述せん

東北ハガンヂス、フアマプートラ河口の平砂遠く亘りて三角洲をなす首府カルカッタは其近傍にあり夫より西南に進めば東ゴーツ山海岸に接近し海岸急斜して良港に乏し南方にマドラスあり其より以南は即ちコロマンデル海岸と稱し風濤常に荒らく白浪海岸を打てりコモリン海角は即ち大半島の尖端なり

錫蘭島の其東南に横なる高原性の大嶺にして高山秀峯(ペドロタラガラハ八〇〇〇呎)參座し流水に富み地味肥沃にして林材多く農産饒多なり

海角を繞て孟買に至る間は海岸小屈曲多く從て良港に富む之れをマナーバー海岸と云ふ孟買ハ印度西海岸の要津にして船舶出入極めて瀕繁なり同港より北方印度河に接近してキヤチト稱する淡水湖あり水至て淺し

**地貌** 山嶺ヒマラヤの北方に峙ちて西藏との境をなす其秀峯二万九千呎に達す實に世界の最高峯あるエベレスト山是れあり其他二万呎に達するもの數多あり是等諸山の南方は恒雪線一

萬九千呎に達すヒマラヤ山の著名の山脈はガンヂス河の南方デガン半島の脚部にウインジャ山ありて東西に走る東西ゴーツ山の半島の兩側にありて海岸と駢走す東にあるものハ平均の高度二千呎を超過すると稀にして流横谷の切斷する所となる西ゴーツの海岸に迫つて斷崖をなす其高度亦東ゴーツの比にわらず其秀峰は五千呎に達す東西ゴーツ及ウインジャ山脈の中間に狹まる高臺ハ其平均の高二千呎乃至三千呎に達す土地之豐饒の所ありて木綿の栽培に適す

**平野** 印度河口よりガンヂス河口に接續する平野にして其長千五百哩あり恰も佛のハリより魯のモスコーに至る長さに相等し

**河流** 印度河ガンヂス、フアマプートラの三大河の外尙數多の巨流ありマハナディはデガン半島の東北部の水を集めて東流してベンガル灣に注ぐ其流五百哩なり時々暴漲して人畜に害を與ふると數々之れありとす千八百八十六年の如きハ水の爲めに百廿万の生靈を奪たりコダウエリハ其南にあり半島中最大の流に去て其源を西ゴーツに發し半島を横過して海に入る全長九百哩ソリヌナハ更ニ其南部にありコダウエリと等しく西部の水を集め同河に接近して海に注ぐ

舟行便ならずナルブツメの半嶋北部にありウンジャ山脈とサウトプナ山脈の間を流れ西方カム  
ベイ灣に注ぐ其長八百哩中流にハ石灰岩の巖間を流れ激浪岩と相應して煌々射るが如し玄武岩  
の奇狀を呈して其景色を壯にす

**氣候** 印度の地たる其大部ハ熱帶地方ニ横たるを以て氣候炎熱季節は三つに分る即ち三月よ  
り五月に至る間天氣清明にして温熱甚しと雖も六月より九月に至る間は西南氣候風の爲め空氣  
濕潤にして降雨饒多なり此の季の來たらんとするや雷電頻に至り風雨之に加はり實に溼鬱たる  
光景を呈す太陽南半球に歸るときは氣温尤も人身に適し土人尤も愉快を感じる時とす

**植物** 南方は熱帶性の植物に富むと雖も北方殊にヒマラヤ山地方にては寒帶性の植物を生ず  
其内有用なる植物はテーキサル等の艦體等も用ゆる良材椰子等と食品として建築として又織  
物等として極めて有用なる物質なり竹亦多く器具を造ると亦盛なり

**動物** 象ハ其著名なるものあり虎はベンゴール虎と稱し極めて猛惡にして人畜を害すると夥  
しく實に其數を知らず獅子は鬚を有せるものなり象はヒマラヤ南麓の叢藪中ニ夥しく豹は其縛

惡なると決して虎に劣らずと云ふ其他ヘエナ熊鹿等多く毒蛇ハ人を害すると甚だ夥く千八百七  
十一年の如きは一万四千五百余人は其咬噬に遇ふて死去し千八百八十一年に之一万八千六百余  
人を咬噬して死に至らして猛獸の害又鮮少ならずと雖も之れを毒蛇に比すれば至て少しとす是  
を以て政府及人民ハ共に之れが撲滅ハ力を盡し千八百八十一年の如きは毒蛇二十五万五千匹猛  
獸四万三千頭を殺したりと云ふ

**礦物** 印度ハ鐵産多し其國にして石炭と鉄を其最も主要なるものとす黄金の如き金剛石の  
如き多少之れを産す

**職業** 農業は主要の産業にして成人の三分の二は此に従事す主産物と稷米及小麥なり稷と其  
産地廣く饒多にして且つ最も安價の食物なり綿とデカン半嶋の黒土殊にボンベイの地方に産す  
る事夥し麻とカンシヌ河口の瘠土に産す罌粟の類は政府の保護の下にあり藍は印度カンシヌの  
沃野に産し茶は北方アッサム地方に自生し年々之れを四方に移植す珈琲は南方に栽培せらる

**工業** 孟買府の木綿紡績は其主位に居るものあり麻布の製造之に次ぐ藍靛金屬器具及象牙細

工も亦精巧のものなり

**交通** 河流の緩漫にして舟楫を通すべき北部の平原を灌漑する三大河あり加之運河ありて運輸の便あり舟行すべき全長二万三千哩鐵道は其全長一万八千哩あり

**貿易** は主として英國の掌裡にあり明治廿六年より廿七年に亘る貿易高を驗するに十億萬圓以上に達し我國の貿易高の五六倍に相當すと雖も之れを人口に比すれば我は四拾四圓にして彼我より少なきと八圓なり

**輸入** 輸入の主要なるものは綿布及綿糸類にして一億七千万圓に達し全輸入の半を居る是等は英國より輸入す石油之之に亞ぎ露米の齎す所なり砂糖糖機械類鐵道用材之に亞ぐ本邦よりは洋傘燐寸絹織物生糸等あり輸出品は油製造の種子尤も綿花米黃麻之れに亞ぐ

**行政組織** 印度全版圖の十分の六を英國の直轄に屬し殘餘十分の四は凡七百の半獨立若くは酋長の自治に屬す

**政府** 政府は首府カルカッタにあり其年中熱氣甚しき時即四月より十月に至る間はシラムと

稱するヒマラヤ山に移轉す親任總督を長官とし參議會を置きて諸事を協參せしむ地方の行政は本邦の如しと雖唯其區劃の大なるのみ其他獨立邦土の主要なるものはハイデラバッド、マイソール、キヤンミヤ、ハロータ等とあす

**都會** 首府カルカッタ(九十万)はカンジヌ下流の西支流フグリーに跨り衙衢廣濶大廈高樓相櫛比し机桂林立亞細亞洲中の大都會にして又良港の一に居る

**マドラス** (四十二萬)は印度中の良泊あり其東北半年風の吹來る時は波暴くして安全ならず同所より漁車に乗じて斜に西南に出づればカリカッタあり其昔更紗を産するを以て有名なりしが今は其産出を見ずバヌコデカマの初めて印度に着したるは實に此港にして今を去る事四百年なり

**孟買** (八十萬)はデカン半島の西海岸にある大都會にして印度中最良の港あり抑もボンベイと葡荷牙語にして良灣と稱する義なり各國の人民集合する地なるを以て各種の國語を聞くを得鐵路を以てマドラス及カルカッタと相連絡す

バトナ (十七万五千)はカンジス河岸にある回々教都の一にして現今阿片を産出すると夥し其近傍にガヤと稱する所あり釋迦牟尼佛の誕生なりといふ

ハデラバット (卅七萬)は半島南部の半島南部の最大なる都會にしてマドラスよりボンヘイに至る間にあり

ラクノウ はウードの舊都なりカルカッタの西北カンヂス河の瀕に在り人口二十七萬あり

ベナレス は其南方にありカンジスの一支流を臨み人口廿一萬あり殿堂佛像等の彫刻物許多あり順禮の參詣するもの少なからず

デルヒイ はラクノーの西北にある舊都にして人口十八萬印度に於ける回々教の中心にして商業亦盛なり

ヘスワール (八萬)インダスの一支流の上により鐵道の北端にして此地方よりカプール河に沿ふて阿富汗のカブルに達する事を得之れをキハ越と云ひ軍事上の要所なりされば露西亞人の覬覦する一日にあらざるなり

右に述べたるもの、外佛領及葡領あり佛國はコマウエリー河口にあるヨナ、オン、マドラスの南にあるボンヂチエリー其南なるカリカルを有し西海岸に於てはカリカッタの北方にマヘを有す葡萄牙はボンベイの南にパンジム北方にママムを領しキッチワール半島の尖端にデウ島を有す然れども其佛領たるを葡領たるを問はず共に葦藪たる彈丸無子地なり然れども他日の過亂ハ此地より起るやも未だ圖る可からず

## 阿 富 汗

阿富汗ハ印度の西北に隣る邦土にして略方形をなし東はスリイマン山脈の連亘するありて印度との界をなし東北はヒンヅークツンニ嶺として雲表に峙ち其餘脈西南に延びてイハハ山脈とありシアー嶺とある此三嶺は實に此國の分水界をなす其北に流る、ものはアムール河ムールガフ河及ヘリールド河なりアムール河と西北に流れてアラル海に注ぎムールカン河及ヘリールド河は西北に流る、と雖も共に砂漠中に消失して終を全せざるものあり南流するものはヘルムンド及印度河の上流なりヘルムンド河はコーイハハの東南に發源し西南に流れ國の西南隅に流れてハ



ムーン沿に注ぐ印度河の上流はカプールにしてヒンヅクツヤユ南麓の水を集め東南印度に入るエムールはカプールの南にありスライマノ嶺を横過して印度河に合す

印度より此國を通ずる要路は印度誌に於て陳述したりしキール越は其一なり此通路之軍事上必要なる關門にして一夫當らば萬夫進むを得ざる天險なり

クラム越は同名の河谷を踰ゆる道路にしてキンヅンよりカプールに至るの要路なり

**氣候** 地勢高峻にして濕氣稀薄なるを以て氣候の激變甚しキヤヅニーは海面を抜く事七千八百呎の高所に在るを以て返寒の候は市人皆家屋内に蟄伏すカプールの嚴冬は其度又キヤヅニーに劣らず外出するものは至て稀ありとす又南カンマハーに至れば冬日温和にして夏日ハ酷熱日陰に於て九十度を下るとなし

**動物及植物** 小形の獅子及豹はヒンヅクツシュ山に産す熊も二種類を産す駱駝之最も有用家畜なり植物はカストル油と稱する油を製する植物小麥米等を産し林檎葡萄レモンの如きもの亦少ならず

**人民** は約五百萬にして多くはアリヤン種に属すと雖も蒙古の雜種少からず其容貌舉動共優美ならず多くは牧畜を以て業とし兼而養蠶に従事し絹布及毛氈を製す此等をペルシヤ及印度に輸送す然れ共國政統一を缺き商業活潑振起せずカプールにてアミールと稱するものありて國の主權を掌握すと雖人民は其命令に従ふて租税を負擔せざるもの間々有之とす

**都會** カプールの同名の河流の濫域に在る都會にして人口五萬中央亞細亞より甘度に通ずる要路に當り商賈至て盛なり中央亞細亞よりヒンヅクツシュの峻嶺を踰て來るものは土地の豊饒にして氣候の佳良なるを悦ぶと云ふセヲ、ハットは其東方七十五哩にありキール越の極西の地にして軍事上必要の地たり

**ギアヅニー** はカプールの南にあり南部カンマハーを通ずる要衢に居りカプールの一支流に臨み八千呎の高所あるを以て寒暑の差甚し軍事上の要塞たり此地は其昔勇を四方に振ひたる帝都の所在地にして殷富の都會なりしが現今は衰頽して人家僅に千五百を有するに過ぎず

**カンダバー** はカプールの西南二百哩あり此國南部の首都にして人口十萬ヘラットに達

する關門たり家屋は皆土造にして矮小且つ清潔ならず  
ヘラツト ハカプールの西方四百哩にある商業地にしてヘルシヤの境に接近し中央亞細亞よ  
りカプールに至る商隊は必ず此地を經過す魯西亞及英國は何れも鐵道を此地方に布設せんとす  
るの計畫あり

スライマン山脈とアムール河との間にある平野は之れを阿富汗土耳其と稱し阿富汗の西長ア  
ミールの配下に属せず英露兩國協議して別よアミールを置き以て管治せしむバルクは其都會の  
主なるものなり

ヘルシスタン

阿富汗の南部にある高臺と即ヘルチスタンにして其面積約十三萬方哩あれ其氣候不順にして人  
煙稀薄其總數二百萬を超るす國の主權は印度政府の掌握に歸す都會の主要なるものはクエツタ  
及ケラツトなりクエツタは國の北部にあり印度河谷よ沿ふて來るシンドピモン鐵道の近傍にあ  
りポーラン峽谷と此地より印度に至る唯一の通路なり鐵道及ポーラン道はヘルチスタン中最も

豐饒の區域にして之れをキツナガンマバと云ふ

波斯王國

イラン高臺の西半に國をなせるは即ちヘルシヤ王國にえて東は阿富汗及ヘルチスタンに隣り西  
はアラビヤに接す南はペルシヤ灣及アラビヤ海に臨み北は露領シベリヤに界す此國の全面積と  
六十二萬八千方哩ある大國なれ共人口は僅に八百萬人即ち一方哩に八人を有す

地貌 數條の山脈西北より東南よ向ふて相駢走し高原性の平地其間に狹まるエルブルツは西  
北裏海の南海岸にありて之れと駢行すマウエントは其高峯にして二萬呎に達する活火山なりコ  
ラツサンと稱する大鹽砂漠と其東南に横はる其南方の地勢も亦此地方と相等しくルツトと稱  
する砂漠あり此地方に於ては疾風砂を捲き砂丘之れに追はれて常に移轉するを以て村落は生ず  
る機會なく行商の爲めに苦む所とす此地方の西南は山脈重疊して海岸に切迫す

ウルミヤ湖は國の西北隅にあり海面を抜くと四千五百呎の處にあり鹹水にして鹽分極めて濃厚  
人之に投するも沈む愛おし二大河ありて之に注ぐ此湖の近傍は土地極めて豐饒にして植物盛に

生長し村落所々に散在す

**氣候及植物** 氣候極めて乾燥にして寒暑の差甚し從而植物は地方によりて著しき差異あり谿谷には櫻榆胡桃等を産出し裸麥小麥等は數千呎の高所に生育せり木綿砂糖葡萄等と南方の低地に許多存在す

**職業** 農業の國の主産業にして人民の三分の二ば之に従事すと雖土地の三分の一は未開墾地なり磁器陶器の製造毛氈並毛織物等は手工の主なるものなり

**商業** 此國の商業専ら中央亞細亞に住する露西亞人との間に行はる輸出物と阿片乾果絹布毛氈及寶石眞珠類とす輸入物と木綿毛布玻璃砂糖茶及珈琲とす

港の主要なるものは波斯灣に臨むビュシーア、ハンタルアハンの兩港及裏海の海岸に位する二三の諸港あるのみ鐵道は其布設至て僅少にして其全長數十哩あり英國人は國の首都テヘランより西南隅にあるアルワスまで車道布設を願出て其許を得たるを以て遠ららず開通式を開くべくアルワスよりベルシヤ灣までクラン河を往復する漁船あり英人の所有なり又一千八百九十三年

にの裏海沿岸に車道の新開を露國に許せり

**都會** テヘラン(廿一萬)は國の北方エルブルツ山脈の南麓あり市街狹隘にして屈曲し軌路或の凹凸多く殊更に陷阱を設けたるが如き處あり不潔は言はん方なし

**タブリツツ** は國の西北魯土の境界の接近し人口十八萬商業甚だ活潑なり

**イスバハン** (六萬)は此國の舊都にしてテヘランの南方にあり回々教盛に行はる此地の往時の活潑の帝都にして頗る繁榮を極め外廓は二十二哩に及ぶ牆壁を以て廻らしたりしが現今之大に衰頽して狐狸其巢窟を作るを見る

**政体** 波斯は純然たる專制帝國にして王をシヤエヤンレ(王中の王)と稱し參政官及大臣之を輔助す國法は總てコーラン(回教經典)の教理に基く教祖マホメットの聖經中にある回教の教理又は其教祖の口授の註釋及訓言及高僧の説明等に背戾せざれば國王の權力を無限なりとす又國王を以て教祖の代理者となすか故に國王人民をして強て命に従はしむるを得る規定なり

**宗教教育** 國內に許多の専門學校あり皆公立資金を以て之を維持し宗教・波斯文學・亞拉比亞

文學及他の科學を教授せり尙多數の小學校ありと雖富者と一般に教員を自家に迎ひて其子弟を教育せり又四十年前よりテヘランに於て諸藝學校を開き歐人を雇聘し教授者となし以て泰西の語學及科學を導くを力めたり又テヘラン及タブリーズには陸軍兵學校あり然りと雖も人民一般の教育は單にコーランを讀むに止まるのみ

軍備 陸軍は常備殆んど五万ありと雖海軍は只二小軍艦より成れり

財政國防 今王の在位に至り大に徵稅法を改良し遊牧を業となせし稍從前獨立の種族をして悉く納稅をなさしめ歳入の六分の一は物品を以て徵收す歳入を總て各市區及郡に對し調稅員其稅額を定めて徵集す但し政府の任じたる調稅員は屢々其の稅額を變更する事あり而して殆んど租稅の全額を勞働者に課し耶蘇教猶太教及ハルニス教の信者より徵集する稅額は甚だ僅少あり

### 亞 拉 比 亞

亞拉比亞はヘルンヤの西南に位する世界最大の半島にして始んて四角形をなし海岸の出入極めて少なし其面積は百廿六万方哩にして海岸線僅に四千哩なり

此國の表面甚だ整然として中央高原砂漠帯及び半島の南部に於ける海岸山脈等此國を組織す中央高原は北方より於て二千五百呎より西南に於て七千呎に至る二三の山脈は高原を東西に横斷せり

- 一 中央高原をチンドと稱す
- 二 砂漠を分ちて二部となす北方にあるものをシリア砂漠南方にあるを亞拉比亞大砂漠となす
- 三 亞拉比亞に於ては河川もなく亦湖水もなく唯降雨期節に於ては數多の小流を作るあれども一年中九ヶ月乃至十ヶ月は常に乾涸せり

亞拉比亞の氣候は酷熱にして頗乾燥なり實に亞弗利加と全しき氣候にして其半部は無雨帯にあり  
亞拉比亞及びヒデツカンの反對 亞細亞に於ける大半嶋間に著しき反對を見る今之を左に示さん

### 亞 拉 比 亞

デ ッ カ ン

- 一 亞拉比亞南方に於て幅廣し
- 二 同上の三分の一は砂漠なり
- 三 同上 両側に狭長なる海を有す
- 四 同上の北方はシリヤ砂漠あり
- 五 同上 海岸は港少なし
- 六 同上の地勢動植物共に亞弗利加的なり
- 七 同上は島嶼少く又皆小なりとす
- 八 同上 之世界に於て最も人口稀薄なる土

- 一 デツカン南方に至るに隨ひ次第に細小となり終に海角に終る
- 二 デツカン砂漠なく豊饒なる土地多し
- 三 デツカン其両面大洋に向ふ
- 四 デツカン地方は豊饒なるカンシスの平原なり
- 五 デツカン海岸に良港多し
- 六 デツカンの地勢動植物共に亞細亞の性質を帯ぶ
- 七 デツカンは其海岸島嶼を有する頗る多く且つ一大島錫蘭あり
- 八 デツカンは世界に於て最も人口稠密な

地なり

る地方の一なり

**植物** 熱帯性にして亞弗利加に近似す椰子珈琲及香料或は藥用植物等最も價格あるものに於て海に面する斜面地方に於ては小麥大麥粟其他最良菓實を産す

**動物** 此國には殆んど森林なく隨て野獸なし豹大野猫狼等専ら山岳地方に棲住し駱駝羚羊等と砂漠中の畜地に生活し家畜にと馬駱駝あり羊及山羊の如き少からず

**人民** 此國人はセミチツク種に屬し身長高く強壯にして皮膚褐色黒眼を有し髪黒く頗る高尙に見ゆ

**産業** 此國は産業少く又最も低度なり此國と世界の非産業地と稱せらるメーイン地方に於ては織物業金銀鑛箔葉少しく行はる全國鑛屬を唯僅少の鉛を産するのみ

**商業** 内地貿易は盛に行くる然れども外國貿易に至りては頗る少なり僅少なる輸出を駱駝羊馬珈琲糖となし僅少なる輸入を木綿砂糖鉄となす

**區劃** 此國は八地方に分れ獨立のものあり或は外國に隸屬するものありエルハツサ、オーマ

ン、ハドスモート、イーメン、エルシヤズ、チシド、ヘシヤ、シナイ、地方是あり  
都會 全半島中人口五十萬以上を有する都府僅に一なりマスカット是れなりサナハは之に次  
で大なるものなり最も有名なるものをメツカ、メチナの二府とすメツカはマホメットの生地  
に  
てメシナは其墳墓を有する所なり其他亞丁、モカ、リアド及ヘール等の小府あり

交通 此國には道路なく河流運河なく又湖水なし然れ共至る處隊商道路あり其方向と其途に  
池泉の存する多少に由て定まるものなりメツカ、メシナは其道路の中心なり

### 亞細亞土耳其

亞細亞土耳其は小亞細亞半島シリア及ユーフラチイヌナグリス兩河の流域にして其全面は七十  
三萬哩亞拉比亞の半より稍や大なり此地は昔人文發達にして文業の中心なりし事ありしが現今  
は衰頽して漸く其遺跡を留むる而已嗚呼一盛一衰は數の免る可らざる處乎

此地之北之地中海に瀕し東は高加索地方及ベルシヤに接し南は亞拉比亞に隣り西之地中海に凸  
出す海岸は小屈曲に富み犬牙の錯雜するが如し黒海のツレビドヅント、イーシヤレ海のスミル

ナ地中海ベイラウト等は海港の主要なるものあり小亞細亞及シリヤ地方は山脈丘陵各處に散在  
し平地に乏しタウラス及アンタタラスは半島の南部に於て其海岸に駢走しポンチツカ山脈は  
黒海の海岸に駢行すレバノン及アンチレバノンシリヤの地方に於て地中海岸に平行して南北に  
走る山脈あり

河流 ユーフラチイヌス及チグリスを以て尤も長大なるものなり其他キシルイルマタ河は小亞  
細亞の東北地方に發源し西方に流れて黒海に注ぐ其他長流なしウミン湖之國の北部にある湖水  
にして湖脚を有する事なく其水極めて鹹なり死海はシリヤの南方パレスティン地方の低地に  
ありシヨルダン河之に注ぐと雖も蒸發極めて盛其湖面は地中海中より低きと千三百呎世界中最  
低窪地と稱せらる水質清冽鹽分濃厚人之に投するも没する事なし其海岸には許多の階段を有し  
貝殻の化石を存す

氣候 は乾燥よして寒暖の差甚し人民の職業と専ら農業よして木綿製造阿片葡萄及菓實の収  
獲多し

**交通及商業** 交通は甚だ不便にして鉄道は僅く四百哩の布設あるのみ此地之陸路歐洲より往時波斯地方に至る要衝に居るを以て商隊の通するもの多かりしが蘇士開通と共に大に衰微したりと云ふ

**人民** 住民は土耳其人希臘人伊太利人等は相雜居し其數総而七百餘萬に及ぶ希臘人及アルメニヤ人は商權を掌握す醫士法律士教師銀行等に從事するものは大抵希臘人の系統に出つと云ふ都會 スミルナの亞細亞土耳其の大都會にして人口廿萬建築物結構堤防構造を初め総而什器に至るまで歐風を模擬し頗る衆目を娛ませむるものあり

**ダマスカス** はヨルダン河の東方にあり人口二十二萬商賈極めて繁盛なりベローロとは海岸にある有名の港にしてダマスカスに出入する物品と此地を經過す

**ゼルサレム** とダマスカスの南方ヨルダン河の西方にあり耶蘇は此地の近傍の寒村ベスラレムに生れり

**アレキサンドレツタ** は一名をスカンデルーンと云ひシリア北方の良港にして鉄道は此

地より東南よあるアレツポ(十三万)を經而波斯灣に達せんとする計畫あり

**ツレビドヅン** は黒海の一良泊にして人口四萬五千波斯に至る健路なり

**バクダツド** は二又平野の中央にあり人口十八萬商業活潑ありモスレム時代は非常に繁盛なりしと云ふ倫の古城跡存在す

### 魯領亞細亞

亞細亞の北部にある大洲にして其面積約全体の半に居る此地は昔魯國罪人の流竄所に過ぎず其南彼得大帝の時に當ては其領地僅に中央亞細亞の地に留まりしが銳意段圖の擴張に注意し一時片刻も怠りなく僅々百餘年間に二百五十萬方哩に亘る地を掌裡に歸せしめたり偉業と云ふ可らず

其今日に至りては尙ほ足れりとせず益々威を逞せずとん暴戻も亦極まると謂はざる可らず

**魯領亞細亞** 之を大別して三となす西比利亞中央亞細亞高加索地方是れなり

### 西比利亞

西比利亞は支那の北方を横る大洲にして其全面積は凡そ四百八十六萬方哩あり全歐羅巴より遙に大かれ其北部は荒蕪の平野にして人民の生活は氣候極めて寒冷なるを以て民數僅に五百萬なり

地勢 地勢に就て區分すれば二つとす其一是西方の低地にして他の一は東の山地なり山脈の主要なるものは蒙古の北境をなす阿爾泰山及薩彥山々脈とし東部に於てはタボノイ山脈黒龍江諸山及場察加諸山脈とす

阿爾山脈 之西比利亞の西南部に蟠結する大山系にして其平均の高度は四千呎にして秀峯はバルハと稱し其高我富士と栞杭し得可しと云ふ此等の諸山系を横過する横谷は六十哩に達し千古氷雪を陰藏すとす

薩彥山脈 之阿爾山の東北に連亘する大山脈にしてオビ河エニセイ河大河此所を涵養せらる此山間より砂金を産し銀鐵ハエニセイの谷地にあり鐵鐵各所に發見せらる

スタチノイ山脈 は露西亞のスタンより轉訛せしものにして脊髓と云ふ義なり此山脈の起

点は蒙古砂漠の北方に起り之れをヤプロノイとも云ふ其主脈はレナ河の上流に盤旋し滿洲の界を於て最も高峻と極む然れ共其高は七千呎内外なりとす夫れより次第に東北を向ふに従而高度減じ遙に東北に延びて白令海狹に終るされば此山脈之氣候の分界線となし山西は耕作をなし得可しと雖も山東は寒冷にして禾穀を適せず

黒龍江諸山 是黒龍江兩岸をある山脈にして其左岸あるものと即滿洲小興安嶺の延長したるものなり其右岸あるものは之れをシホト山脈と稱し東海岸を駢走し懸崖崎嶇甚だ多し堪察加諸山は數多の火山を以て組成し活火山處々に參座す其高峯は一萬六千呎に達するものありシリユナと云ふ

河流 西比利亞に涵養せらる、河は大河にして其流緩漫あり夏日は舟運灌溉の便ありと雖冬季返寒甚しき日は厚氷凍合し狹隘なるものは水面より河底に至るまで盡く永塊となると云ふオビ河は西比利亞の西部にある大河にして阿爾泰山陰の氷田に發源し西北に流れバルノールに至り川身漸く廣濶となり諸川を合せ遙西北に至りてイルチス河を合すイルチス河の上流は遠く



支那蒙古の地に發し西北に流れ中央亞細亞のサイザンに注ぐ(其長さ凡貳百哩に及ぶ)全湖より更に西北に進みセミパラチンス及オムスクを距て河身廣濶水勢寛如となり西北流し(インム河を合せ)トホルスクに至り一支流(トホル)を合せ夫より東北に轉してオビ河に入る其長六百哩に及ぶ川身中淺處あり氷結は十一月中旬にして其融解は五月初旬とす兩川合して北方に流れオビ灣に入る其全長千里に及ぶ河中に許多洲島あり水路分岐する處の十里に及ぶヲビの漁業甚だ盛にして毎歳の漁獲の魚卵魚脂を合して百五十万羅に及ぶ  
エニセイ河は支那蒙古なる薩彥山中に發源シクラスマルスク府を経て上トングス一名アングラ河を合せ河身廣濶となりエニセイスク府を通過して數多の支流を合せ北流してエニセイ灣に注ぐアングラ河はラハイカル湖に發源シイルコーストクを經而北に下る其途次數多の急湍あり其主の著名なるもの之巴頓なり巴頓は七列の巖岨水路を横斷し波濤激怒し百浪空に飛び其響百雷の轟くが如しエニセイ河は魚類を産する事少ならずと雖之れをヲビ川に比すれば結氷期は中流尤も遅く下流尤も早しとす是れ全く氣候の寒冷なるに歸因す

ピヤシナ河及ハタンガ河の北流するわれ共河水の一年中氷結して融解する事僅に二月に過ぎずといふレナはハイカル諸山に發し稍や西南に流れ方向回轉して東北に河道屈曲してオレミニスクに至り河身は其幅殆んど千メートルに達しヤクトスク近傍に至れり河身中に多くの島の輻散在す是より河流は漸く其方向を轉して西北に向ひ更に進みて北方を指して直に北氷洋に注ぐ其河口は三角洲をなす千七百九十九年にはヤシト人は巨象の死体を凍土内に發見し其肉を以て獵犬を飼養せし事ありと云ふ此河は各處魚類は富み其捕獲盛なるのみならず物貨の運輸甚盛にして獸皮及象骨麥粉等を運搬す

黒龍江 は其源二つあり一をシルカと云ひ他をアルグン河と云ふ共にケント山の陰陽に發源し東北に流れストレルカ村に至り相會す此處にて始めて黒龍江の名を得シルカの兩岸の其風景佳絶西比利亞の勝地にして古跡又少からず兩川の相會する点より河口に至るまで凡八百里の間は漁船の往復を防げずといふ河幅は滿洲の愛禪城近傍に至れば一千五百米に達し松花江を受けて漸く放大にして二吉米に達すれ共小興安嶺を横斷する時の峽谷相迫り斷崖巖岨兩岸に排列し

最も風景は富む稍や下りて興凱湖に發源する烏蘇里を合せて身中に許多の島嶼散在すソヒヌク村近傍に至れば河幅三吉米に達す同所より河口に至る間ハ暴風起れば怒濤起り小船の航行に危険を與ふ事少からず

**湖水** ハイカル湖一に聖海と稱し世界第一の淡水湖にして長百六十里幅八里乃至二十余里に亘る支那人之往昔之を北海と稱す漢の蘇武匈奴に使し匈奴其の賢を聽き之を降さんと欲し百方苦心すれ共降らず仍て抵を北海の濱に養はしむるといふ其北海の實に大湖水なり湖岸の諸山の率ね突兀として水面に聳へ傾斜極めて急峻に去て其高凡三百尺に達するもの趣からず水深の概ね八百尺にして極深の處にてハ四千尺に達する處ありと云ふ湖水ハ十二月に氷結し五月中旬に融解す総而西比利亞の諸川の初め水底に氷結し次第に浮出して水面に氷結するを常とすれども此湖の結氷ハ然らず河流より流出する浮氷來て湖上に結着き其厚さ一二尺に及ぶされハ冬季ハ貨物の運搬等ハ総而湖上を通過すと云ふ

ニアメイ湖ハ西比利亞の西北にある湖水にして湖岸の地勢平にして芦葦各所に茂生し満水の時の漲溢して近隣の諸湖と相連続す湖内島嶼多く其内に村落をなす  
右外曲凱其他諸湖われ共之を略す

### 海岸及港灣

北氷洋海岸ハ諸大河の河口船舶繫碇に適すべき地之れなきにあらざと雖一年中僅に一二ヶ月の外結氷するを以て殆んど船通し得る事能はず太平洋海岸も其大部分ハ氣候寒冷にして流水多く皆南方日本海沿岸に兩三の港あるのみ其ハ彼の得大帝灣内のウラシナストク及黒龍江にしてニコライスクハ其河口にある一港なり其他ラータ海オコック海の北部にあるオーツタヌク及東方陽にあるヘンシナスは有名なるものなり今左に瑞典博士ノルデンシヨルト氏の北海探險の概略を記して航海状態を陳べん

ノルデンシヨルト氏ハ瑞典王及有志者の保護を得てウエガ號と稱する一艦を憺し千八百七十八年七月四日にヨッテンブルクを發しカラ海を経て亞細亞の最北端東北岬に着したるは十月十八日にてありき蓋し此岬ハ遠征の第一の目的を以て此迄での探險者ありて此岬まで來らんと企圖せざる幾何なるを知らずと雖共皆其目的を達するものかかりしを以て乗組一同の歡喜盡く能

はず一小地狹に石を積て丘となし中央に流木を立て目標とせし經歷せし征旅の状況及爾後の目的を書し之れを錫筒に入れて岩石の下に埋藏したり夫より同號の漸く東するに從而氣候寒冷となり堅水路に衝り進行澁滞し幾多の困難を排し不慮の危險を冒し西比利亞の東端チントン岬に達したるは十一月初旬也此時に當ては海水満面氷結して艦体の進行全く止みたるを以て海岸に觀象臺を設け磁氣及電氣を研究せんとし其工手に着し十一月に至りて成功す觀象臺は木船を離る事僅に一吉米の處にあれども又風雪の際には往復に四時間を消したる事有之といふ往復の途次寒氣甚しき時と即身體凍り眼睫塞の恐あるを以て斷へず運動し手を以て嘘を暖めたりと云ふ觀象の結果に依れば此の地方の最寒となりし月の一月にして其最高點は三度三分最下點は零下三十五度平均零下二十四度四分なりしと云ふ三月に至り太陽漸く地平線上より昇りしを以て屢々犬車に駕して土人の部落に至り其風俗を調査したり五月の頃より結氷漸く融解し氷上の行通危險となりたれ共航海の好時節到來したりとて船員大に悦びたり七月初旬に至り南風漸く薫し海面豁然として開き海岸より流水を見るのみ是より於てか七月二十日同所を碇錨し大に祝聲を擧

げて白令海峽を經渺茫たる太平洋より出て諸所を探檢し九月二日我横濱に着したり夫より印度洋を横過し無事瑞典より歸航したりと云ふ以上は其記事概略なり

氣候 氣象學者が寒暖の甚しきを稱して大陸氣候と云ふものは蓋此地は其尤も甚しきものなり即冬期と甚た長くして寒氣凜烈零下六十五度(華氏驗温器にては零下七十五度なり)に達し河水と全体氷結し水銀の固結する事稀ならずと雖夏日は極熱に達し華氏百二度に上昇し熱帶地方に於て稀に見る所なりタンドラの如きも酷く熱せられ歩行し能はざるに至ると云ふ今左に兩三ヶ所の測候結果を示さん

	トポリスク	タムスク	イルクートスク	ヤクートスク	ニコライスク
冬季平均温度	氷點以下 一四、一	一三、五	一四、八	三〇、一	一八、一
夏季平均温度	氷點以上 一三、六	一三、四	一三、七	一一、七	一一、八
一年平均温度	氷點以下 〇、一	氷點以上 〇、四	氷點以下 四、〇		二、五

天産物 第一 植物は氣候と密接の關係を有するを以て寒氣甚しき地即北緯五十六度以北は

殆んど繁殖を絶つ唯灌木及苔蘚類を見るのみ良材を見る地ハ南部黒龍沒治水地方に限る黒龍江の灌域ハ松の良材を産し樅亦多く他の針葉樹亦少からじ潤葉樹の主要なるものはカバ檜榆梨胡桃及槲寄生木等の如き植物多く美麗の花を有するものは至稀なり其内松は黒龍河の中流に生し高さ十五メートルに達し建築材として又什器の製造用として尤有要なるものなり其他農産物陸稻黍大小麥及裸麥等ハ其主要なるものにして何れもドボタスク及びトムスク省又生す果物ハ林檎梨葡萄等とす

第二 動物は野生の獸類多くして一大物産をなす即熊鹿黒狐黒貂豹及虎を最貴重のものとし豹及虎は黒龍及沿海州に産し白熊及白狐は北氷洋及堪察加地方に徘徊す虎は牝牡大小を異にし牝は尾を除き一メートル半に達し牡は約四メートルに及ぶ其性悍惡にしてベンチール虎に劣らずと云ふ海獸ハ白令海及チコーツク海に夥しく鯨獵は世界中比類なしと云ふ野禽の種類夥しく河魚亦饒多に去て四大河及バイカル並びにハンカ湖の如き其産格幾何なるや知るべからずと云ふ

右の外前世界に住したりし巨象骨と北氷洋海岸及該河の沿岸より採掘して之れを賣買すと云ふ

### 第三礦物

西比利亞は礦物を産する地頗る多し就中トムスク省を以て最多しバイカル及エニ

セイクス省之に次ぐトムスク省は黄金銀銅錫鉛鉄石炭食鹽寶石等を産す銀及金は阿爾泰山中より多く産す食鹽其他の礦物ハ各所より産す砂金はバイカル州より多く産す

樺太島は石炭及珊瑚富み石炭は炭田の面積濶大にして無盡蔵と稱せらる將來大に嚮望すべき地なり何を知らん此富源ハ我が舊領ならむとは

### 人種

本地に住する人種の大部分は露西亞より移住を命せられたるスラウ人を最多し之れに

亞く蒙古人トングス人及フィン人種とすスラフ人に属するものは勇猛の聞あるカザツク人及堅忍を以て稱せらる露西亞人にして各地に散在す蒙古人の南部及東部に住しトングス人は北部に住す其種多し大抵遊牧又は漁業獵獸を事とすフィン人種は西方に住するもの多し

### 産業

は漁獵及鑛山業に從事す獸類は栗鼠黒狐及テン等の毛皮と最も貴重すべきものにて其収獲巨額に達す漁業も甚だ盛にして多くは凍肉と爲して之れを露京に送る

**宗教及教育** 西比利亞之東部黑龍江沿海地方及阿爾泰山地方を除き希臘教を信奉す希臘教は露國皇帝之れが元首にして國力を一致し道徳を維持し教育獎勵し軍氣を振興するを努むされば露國が敵國を攻略し若くは殖民せしむるに當てて必ず希臘教の布教に従事す是を以て本地には天主教及耶蘇新教を奉するものは至て稀なれ共猶太教ヲマ教回々教及薩滿教の如きものは各地に行くる主要なる都會には中學校若しくは專門學校を設け露人を教育すと雖古來よりの住人は就學するもの少し

**地方劃及都會** 西比利亞の地之れを大別して三となす曰く沿黑龍江總督官轄區曰く東西比利亞總督官轄區及內務省直轄官區之れなり

**第一沿黑龍江管轄區** は西比利亞の東部にして更ふ之れを分ちて四なす一に曰く沿海州二に曰く黑龍江州三に曰く後バイカル州四に曰く樺太島之れなり沿海州は南滿州の國境より堪察加半島を包抱する狹長の地にして氣候寒冷二三の都會あるのみウラヨオストック港は其南方にある著名の港にして實に西比利亞の關門と稱すべし蓋ウラヨオストックと稱する意は東方を

領すると云ふ義あり人口一萬三千本邦人及支那人の來て商賈を營もの多し本市は開港の日尙淺しと雖ニコライスクの軍港を此處に移してより頗る繁榮を極めたりと云ふ思ふに本港の太平洋北海岸の一大港にして鐵道全通と共に米國ニカラガ運河開通の曉に至らば益々盛況を呈すべき疑ふべくもあらざるなり

**ババロフカ** は黑龍江の瀕ありて滿州と境を接し沿黑龍江總督のゐる處とす從て政治上及商業上樞要の都會として漁船の往復あり

ニコライスク府は黑河の河口に密邇し曾て鎮守府の所在たりし時は商況賑いたりし現今之大に衰微したり此府の近傍は鮭の漁獲夥し

黑龍江州の地味膏腴にして農業進歩し其収獲ハ州内の需要に應じて餘裕ありと云ふ  
ブラゴウエチンスクは黑龍江の左岸にあり滿州のサハレンウラと相對す府内に於てハ日耳曼人商權を掌握すザバイカル州のチタ府ハ黑龍江州及沿海州を通ずる要路に當り必要の都會なりキ  
ケアクタの支那の國境に接近して賣買城との貿易盛なり

サハレン島の我國の舊領にして其面積ハ七万五千九百七十方吉米(約五千方哩)即ち我帝國の五分の一)にまで礦物殊に石炭に富むヨルサユフハ其都會なり

### 第二東部西比利亞管轄區

ハ沿黑龍江管轄區の西部にある大部にして分ちて三とす

ヤクート斯克洲イルクート斯克省及エニセイ斯克省之れなりヤクート斯克府ハレナ河谷にあり人口ハ一萬に足らずと雖市人の商工に従事し殊に象骨細工ハ此地の名産なりイルクート斯克ハ西比利亞大都會の一にしてアングラ河の右岸に位し東部西比利亞總督の駐在する所たり人口四萬五千商買輻湊し支那内地に至るの要衝に當り人家稠密區劃依然大厦高樓其軒を連らぬ

エニセイスク(人口八千)ハエニセイ河畔にあり地勢低昇にして其附近に沼澤多し鉄器及毛皮類の賣買盛なり

### 第三内務省直轄管區

ハ之れを分ちてトムスク省及ビトボリスク省の二となすトムスク

府ハ西比利亞の大都會にして大學校の設あり省廳及病院等の建築頗る見るべきものあり此地ハ西比利亞の國道に當り南部の農産物及阿爾泰山地方の農産物ハ此地を經而各地に輸送せらるハ

ルノール府ハトムスク府の南方にある小都會なれ共博物館氣象臺等あり獸皮獸脂等の製造場あり將來多望の地なり

オムスク府ハイルチス河に臨み人口三萬貳千直轄府の所在地たりトボリスク府ハイルチス河のトボリ河と相會合する點より人口貳萬壹千市街ハ上下二部に分れ寺院城壁官衙等の建築物壯麗を極む舟楫の便に富み商業活潑なり

チエメンハトボリスク府の西方にあり郵便及貿易の要路に當り商業盛なり鉄道之既に此地より歐洲露西亞に連る人口一萬五千あり

## 露領中央亞細亞

露領中央亞細亞とは西比利亞の西南に横り東を支那の土耳其斯坦及パミール高臺に連る阿富汗及波斯に隣り西ハ裏海及ウラル河と相接し其疆域我國の七倍に相當すと雖人口を二百萬を超過せずと云ふ

地貌 ハ一般に荒蕪に屬し恰も沙漠の如し東方は天山及パミール高臺の盤旋する處にして

中央亞細亞の巨流と稱するシル河は實に天山々脈の一支脈に發源す東部カフタン地方はキルギツと稱する高臺ありて牧草茫茫羊及駱駝の産夥しアラル湖の南方に之黑色の砂原ありアムール河との間にも亦赤色の砂原ありキヨルグムと云ふ又アラル湖の西方の裏海に至る間又はウスウルと稱する高臺あり

**河流及湖水** 河流ハアムダリ(オキサス)及シルダリは共に東方の山地に發源し西北流してアラル海に注ぐ前者の沿水地方の灌漑の利も富み膏腹の地多し後者の下流には狼野猪及鹿群棲すアラル海は其深さ甚だ淺く冬日は終日結氷し其厚一尺に達すと云ふ

イリ河は支那の地に發源し西流してバルクツシユ湖に注ぐバルクツシユ湖ハ支那人の呼んで西海と呼ぶものなり鹹味苦烈魚類の生活に適せず

**氣候及物産** 中央亞細亞ハ海の影響を受くると少きを以て濕氣に乏しく冬日ハ嚴寒にして夏日ハ酷熱なり然れ共諸水は冷く土地を灌漑するを以て果實及五穀の收穫多し

**行政區劃及都會** 行政區は之れを分ちて九部となす各部の名稱ハ河流によるもの多しコー

カンドはシル河の上流パミール高臺に密邇する都會にして人口六萬商業稍々見るべきものわれ共氣候人身に適せずサマカンド(三萬六千)ハコーカンドの西方シル河に枕み寺院其他の舊跡今尙は存すタメルランの墓ハ此所にあり歐洲より來る中央亞細亞鐵道ハ既に此地にまで布設せらるタスケントは更に其北方にあり西方土耳其斯坦の首都にして人口十三万市街ハ廣濶にして家屋の背には花園を造る風習ありと云ふ

ボツカラはサマルカンドの西南にありアムール河と瀕す此地方の商業の中心たり印度阿富汗及波斯との交通は主として此地による然れ共氣候乾燥に失し荒蕪の地多し  
キウアはアムール河の下流にあり四近の地の灌漑冷く丸葉柳榆の類森林をみし鳴禽其間に轉すアムール河ハ年々氾濫するを以て膏腹の地年を逐ふて新生すと云ふ此地は其昔奴隸の市場なりしが露領となりしより其惡弊を矯正し得るに至りたりと云ふ

### 高加索地方

高加索地方とは地中海と黒海との間にある地にして高加索山脈西南より東北に走る其最高點は

エルブルツと稱し海拔一萬八千呎に及ぶ其他一萬呎に餘れるもの聯號として一百哩に及されば、此山脈の實に歐亞の自然の境界をなす北方の之れを陰高加索オウゴカサスと稱し自然の情況歐州的なり之れに反して南方は陽高加索ヨウゴカサスと稱す亞細亞的なりとす

**河流** 陰高加索にはクーハン及テレツク河あり陽高加索地方にハッイル河ありとすクーハンと黒海に注ぎテレツク河は裏海に入るテレツク河は泥土を運搬すると盛にして年々裏海を埋没する事二十間に及ぶ陽高加索地方にハッイル河あり裏海に注ぐ其流緩漫にして小舟を浮べて四百哩を遡るを得べしと云ふ

**氣候及産物** 寒暑の差甚しく降雪線の歐洲のピレニース山より高きと二千呎なりと云ふ陽高加索地方は果物に富む佛手柑臭橙桂冠等盛に繁茂し林檎及梨亦夥し其他米大麥等の産物夥し**人民** ハ各地其種類を異にし言語亦多し人口と六百五十一萬有之とす其多數は農業に従事す鐵道の二大線あり陰高加索に於てはウラチカブカスより西の方アプーウ海邊に至るもの其一なりチナリスより裏海邊にあるハッに至る其一あり

**都會** チナリスはハッ及西方黒海邊にあるボナの中間にあり鐵道を以て相連絡す又北方高加索を横過してウラチカブカマに至る要街も當り軍事上及商業上樞要の所たり人口十一萬此地方の大都會なりハッと裏海の海港にして人口七萬有名なる石油の産地たり石油を鐵道機關車に用ひ以て薪炭に代用す終り



明治廿九年五月廿日印刷  
全 年全月廿五日發行

滋賀縣犬上郡彦根町字本町第四十七番屋敷

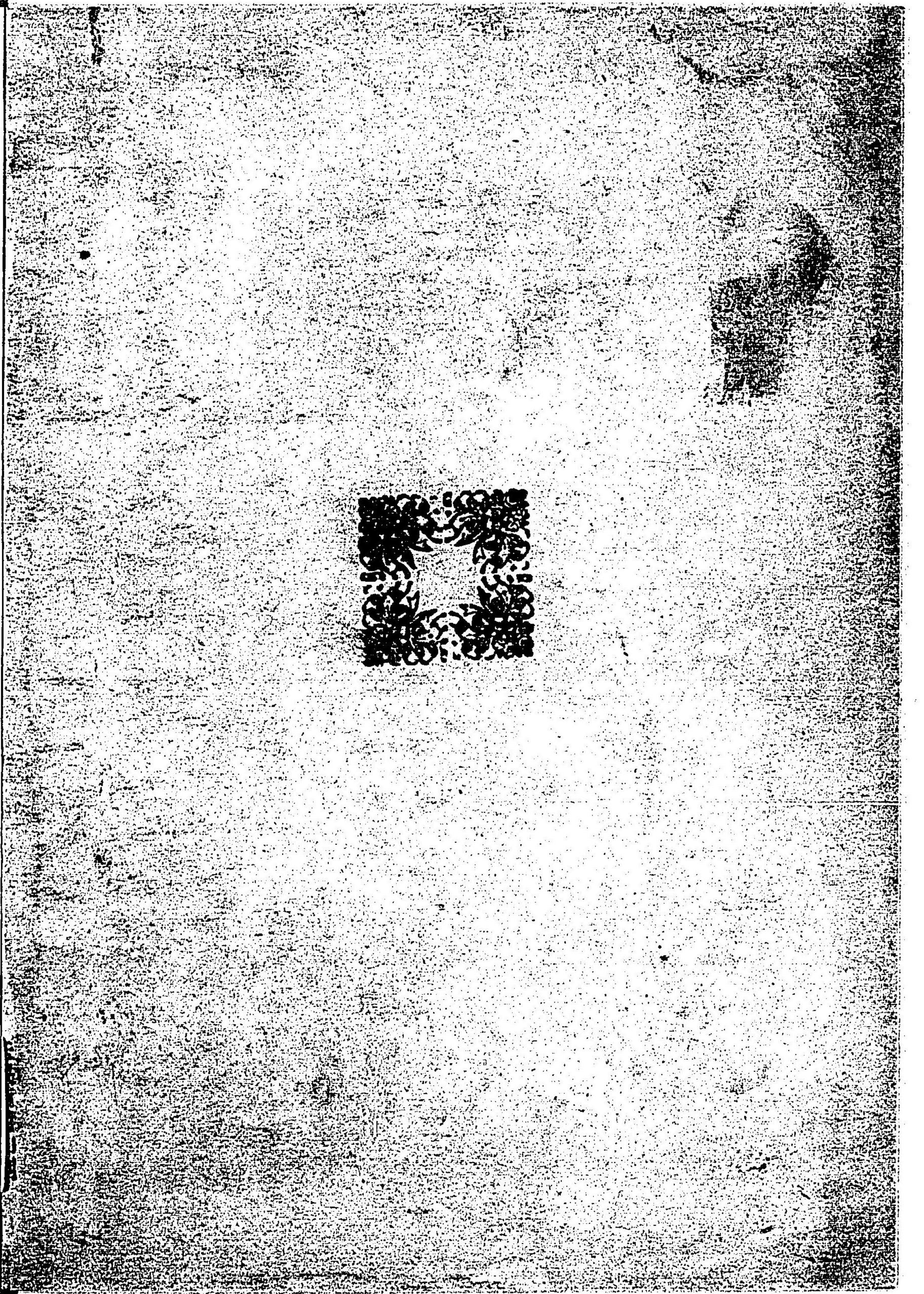
發行兼著述者

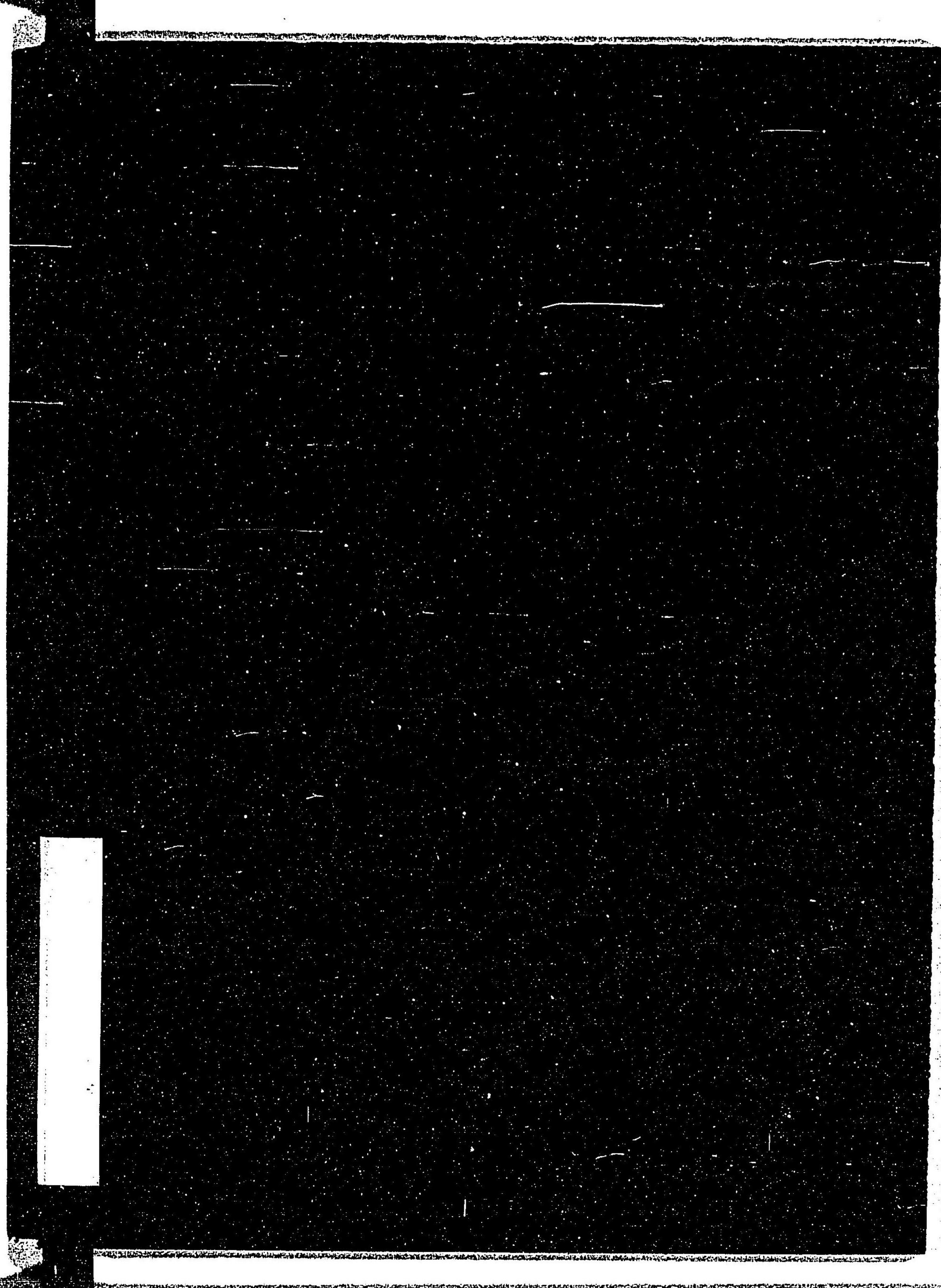
濱 田 俊 三 郎

滋賀縣犬上郡彦根町字本町第九番屋敷

印 刷 者

西 村 市 三 郎





A small, vertical white rectangular label or sticker is positioned on the left edge of the dark area, approximately in the lower third of the image. The text on the label is illegible due to the high contrast and noise.

特45

903

外国地理講義

国立国会図書館

022302-000-9

特45-903

外国地理講義

浜田 俊三郎/著

M29

ADA-0799

